

教室だより

第129号

平成27年5月12日（火）

主な内容 : 創塾35周年記念号

・ 成果	2
・ Quality Education に掲載！	4
・ 和田先生との対談	5
・ 私塾・私学・企業 教育ネット要覧出版祝賀会	6
・ 今年の受験を振り返って（進学実績と体験記）	8
・ 創塾35周年記念	43
・ 近畿大学附属高校進学講演会	50
・ 八尾高校新入生激励講演会	51
・ 原幹太郎君結婚式	52
・ 28年ぶりの同窓会	54
・ 短信・編集後記	55



創塾35周年記念
すほら
塾教
すほら

成果

—講演後の国立大学の合格実績の変化—

2012年5月に八尾高校初任者研修で先生方に教育講演をしましたことを皮切りに、同年7月は金光八尾高校・9月には浪速高校の先生方にも講演をいたしました。その後、金光八尾高校では校長先生や副校長先生・教頭先生らが毎年私の教室に足を運んで下さり、学校教育について忌憚のない意見の交換が実現しています。また、八尾高校では12月25日に1・2年生対象の宿泊合宿と、4月下旬に南港大阪アカデミアでの宿泊研修における『激励教育講演』を行い、近畿大学附属高校では文理コースの1・2年生諸君とその保護者を対象に近畿大学のホール等をお借りし、『進学教育講演』を毎年続けています。

講演が本格的に軌道に乗り出し、講演を聞いてくれた子たちが今年いよいよ大学受験を迎えました。昨年の合格実績に比べて、今年はかなり成果が出ていると思います。校長先生をはじめとする各学校の先生方の取り組みと生徒諸君の努力の賜物ですが、講演をした3つの学校が3つともすべて急激な実績の向上を示していることから、その成果の一翼を私も担えているのではないかと安堵するとともに嬉しく思っています。『これでもか!』という勉強を強制したりしなくても、生徒自身に勉強に対する動機づけと自ら高い志を持たせるようにすれば、自ずと『自主的な勉強』の成果が表れることを証明してくれていると思います。

〔2014年⇒2015年〕

○府立八尾高校 阪大1・神戸3

⇒京大1・阪大3・神戸4【医1】

○近大附属高校 東大1・京大4・阪大10・神戸4

⇒東大1・京大5・阪大19・神戸9

○金光八尾高校 京大1・阪大3・神戸1

⇒京大3・阪大5・神戸5

〔2015.4.5.号サンデー毎日より〕

上記はほんの一部です。地方の国立大学や地元の公立大学あるいは難関私立大学への合格者数も伸びている様子で、各学校の先生方からは大変なお喜びの声をいただいています。金光八尾高校では4月6日に『号外』を保護者に配布された様子で、それを9日の日に校長先生ら4人の先生方がわざわざ教室へ届けて下さいました。喜びを分かち合うことは大変嬉しいことで、私も感激いたしました。

『60歳を超えたら、これまでの塾教育に対する自分の経験を生かしたボランティア活動のようなものが出来ればいいな』と妻と話しておりましたが、

平成 27 年 4 月 6 日

<p>金光八尾 号外 進路ジャーナル</p> <p>発行 金光八尾中学・高等学校 〒581-0022 八尾市柏村町 1-63 ☎ 072 (822) 9162 http://www.konkoyao.ed.jp</p> <p>難関国立大学に合格</p> <p>京都大学 3名 大阪大学 4名 神戸大学 5名</p> <p>平成 27 年度大学入試において、難関国立大学の京都大学・大阪大学・神戸大学をはじめ、多くの国立大学に合格した。なかでも、京都大学に複数の合格者が出たのは開校以来の快挙である。また 2 年連続で医学部医学科に合格したことも嬉しい報告であった。</p> <p>私立大学も健闘</p> <p>開関同立に 280 名が合格!!</p> <p>関西圏の難関私立大である関西大学・関西学院大学・同志社大学・立命館大学に現役生と既卒生をあわせて延べ 280 名の合格者が出た。また、首都圏の難関私立大学に挑戦する生徒も増加傾向にあり、今年も早稲田大学・慶應義塾大学をはじめ、首都圏の難関私立大においても多数の合格者が出た。</p>	<p>平成 27 年度 主な大学合格実績</p> <p>平成 27 年 4 月 1 日 現在</p> <p>国公立大 (53 名)</p> <table border="0"> <tr> <td>京都大 3 名</td> <td>大阪市立大 3 名</td> </tr> <tr> <td>大阪大 4 名</td> <td>大阪府立大 6 名</td> </tr> <tr> <td>神戸大 5 名</td> <td>福島県立医科大 1 名</td> </tr> <tr> <td>一橋大 1 名</td> <td>京都府立大 1 名</td> </tr> <tr> <td>北海道大 1 名</td> <td>滋賀県立大 1 名</td> </tr> <tr> <td>和歌山大 3 名</td> <td>奈良県立大 1 名</td> </tr> <tr> <td>徳島大 5 名</td> <td>その他公立大 9 名</td> </tr> <tr> <td>その他国立大 9 名</td> <td></td> </tr> </table> <p>首都圏私立 (15 名)</p> <table border="0"> <tr> <td>早稲田大 6 名</td> <td>慶應義塾大 3 名</td> </tr> <tr> <td>明治大 2 名</td> <td>法政大 1 名</td> </tr> <tr> <td>立教大 1 名</td> <td>中央大 2 名</td> </tr> </table> <p>開関同立 (280 名)</p> <table border="0"> <tr> <td>関西大 117 名</td> <td>関西学院大 39 名</td> </tr> <tr> <td>同志社大 50 名</td> <td>立命館大 7.4 名</td> </tr> </table> <p>※ 平成 26 年度の卒業生数は 285 名。 ※ 人数は現役生と既卒生の合計数。 ※ 私立大学については延べ人数。</p>	京都大 3 名	大阪市立大 3 名	大阪大 4 名	大阪府立大 6 名	神戸大 5 名	福島県立医科大 1 名	一橋大 1 名	京都府立大 1 名	北海道大 1 名	滋賀県立大 1 名	和歌山大 3 名	奈良県立大 1 名	徳島大 5 名	その他公立大 9 名	その他国立大 9 名		早稲田大 6 名	慶應義塾大 3 名	明治大 2 名	法政大 1 名	立教大 1 名	中央大 2 名	関西大 117 名	関西学院大 39 名	同志社大 50 名	立命館大 7.4 名
京都大 3 名	大阪市立大 3 名																										
大阪大 4 名	大阪府立大 6 名																										
神戸大 5 名	福島県立医科大 1 名																										
一橋大 1 名	京都府立大 1 名																										
北海道大 1 名	滋賀県立大 1 名																										
和歌山大 3 名	奈良県立大 1 名																										
徳島大 5 名	その他公立大 9 名																										
その他国立大 9 名																											
早稲田大 6 名	慶應義塾大 3 名																										
明治大 2 名	法政大 1 名																										
立教大 1 名	中央大 2 名																										
関西大 117 名	関西学院大 39 名																										
同志社大 50 名	立命館大 7.4 名																										

ここ3・4年その希望が叶うばかりではなく、更に広がりを見せています。4月23日には八尾高校新入生320人の宿泊研修にて第3回激励講演会を今年も行いました。また浪速高校からは新入生750人ほどから選抜された成績上位30～40名の生徒を対象に、彼らとその保護者および指導教官に対して、3年間に渡って『教育アドバイザー』として指導して欲しいと依頼を受けています。理事長・学院長の木村智彦先生に3年間の『大綱(案)』をお示しし、ゴーサインを得ています。木村先生と副校長の宮先生の全面的なご協力を背景に、このプロジェクトの総責任者の宮先生と二人三脚で取り組み、浪速高校の学力アップに、連休明けから取り組むこととなります。幸い左記の成果が出ていますことに勇気を覚えていますので、私はベストを尽くそうと考えています。

私が教育講演で話をしていることは、普段学校で先生方がお話されていることとあまり変わらないかも知れません。しかし、確かな資料を見せて別の角度から『第三者』が語るることにより、生徒諸君は話の内容により信頼を深め、自分自身に自信を持ち、やる気を起こしてくれるのです。私が主張しています『塾教育』の一つとして、学校教育と塾教育との連携の実践をやらせていただいている各学校の先生方に、私は深く感謝しています。

今年の大学受験でもう一つ嬉しかったことは**金光八尾高校と近大附属高校から大阪大学に合格した子の中には、私の教え子や元教え子が各1名ずつ含まれていたことです。これも学校と塾との連携の一つの成果だと思っているからです。**

その近大附属の教え子は、右の『月刊私塾界』のホームページに取り上げられている生徒です。後の『体験記』にも寄稿してくれていますが、小学校時代の教え子で突然退塾した子でした。とても心の優しい子で退塾したことを私は大変残念に思うとともに、その後の足取りが分からず気にしておりました。2013年11月7日、近畿大学のホールでスーパー文理コース等の文理学科の生徒諸君とその保護者対象の講演会の中に彼がいて、私の話を聞いてくれていたのです。講演後校長室で先生方と50分ほど話をし、校舎を出てきますと、すっかり日が暮れて強風の吹く寒い中、ずっと私を待っていてくれたのです。私は感激して目頭が熱くなりました。右の記載の通り周りの先生方も同じ思いの様子でした。その時の約束通り見事に大阪大学工学部に合格してくれました。

大学附属高で小さな個人塾の塾長が講演 進む校塾連携

12月 14 塾ニュース, 塾ニュース | 塾・企業 no comments

昨今注目を集める校塾連携だが、さる11月7日(木)、近畿大学附属高等学校(東大阪市)で行われた一例は極めて珍しいパターンと言えよう。

生徒数3,000名を超える大規模校であり、近年は、系列の近畿大学に固執することなく、京大・阪大・神大などへの進学に力を入れている同校だが、そんな中、進路講演会の講師として招かれたのは、カリスマ予備校講師でも、大手塾の社長でもない。町の小さな個人塾の塾長だ。

須原英数教室(大阪府八尾市・創塾1979年)は、塾長・須原秀和氏が夫婦だけで運営する「ザ・個人塾」とでも言うべき小さな手作りの塾だが、いわゆる「進学塾」にありがちな「詰め込み型・やらされる勉強」と一線を画し、「学校の授業」「自分の勉強」と「徹底した基礎の反復」のみで、地元有名進学校や旧帝大に次々合格者を輩出。

その独自メソッドと「受験塾ではない。学校教育・家庭教育・社会教育に次ぐ『塾教育』を実践したい」という理念に近大附属高が賛同し、講演会講師として三顧の礼で迎えた形だ。同校の岡崎忠秀校長は「須原先生は素晴らしい理念で教育を実践している方。塾も学校も関係ない。生徒たちのためになるなら、ぜひその力を借りたい」と語る。



近畿大学附属高等学校(写真:大阪進研のサイトより)



須原英数教室の須原秀和塾長

熱くする一幕も。

こういった心の触れ合いも、校塾連携が目指すべき一つの姿かもしれない。

講演で須原氏は、「あれもこれもと参考書・問題集に手を出さず、『この一冊』を何度も反復すれば十分」「中期・長期の計画を立てる」など、具体的な勉強法に言及するとともに、何度も「キミたちはできる」という熱いメッセージを発し続け、参加した生徒、保護者たちも真摯に耳を傾けていた。

また「一言お礼を言いたい」と、講演後の須原氏をずっと待っていたのは、元・塾生だという男子生徒。久々の恩師の姿と言葉に感極まったらしく、帰路につこうとする須原氏に駆け寄り号泣。「先生、僕は頑張ります！」と誓いを立てる姿に、須原氏、居合わせた同校校長や教員らが揃って胸を

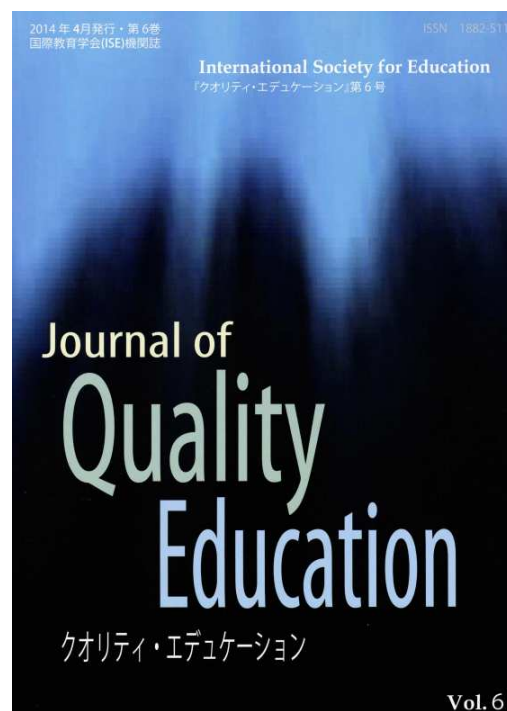
Quality Education に掲載！

—『塾教育』が国際教育学会（ISE）機関誌に—

2013年9月14日（土）国際教育学会公開シンポジウムが京都大学基礎物理学研究所湯川記念館パナソニック国際交流ホールで開かれました。私は『塾教育』について発表する機会を得、その折の原稿が学会機関紙『クオリティ・エデュケーション』第6号に『オピーニオン』として、昨年掲載していただきました。日本の教育における『塾』の存在は世界では珍しいもので、その訳語も一般的には“cram school”とか最近では“supplemental school”などが使われていますが、誤解されている部分も多い様子です。そこで世界に発信できればと考えて、大阪教育大学英語教育講座教授加賀田哲也先生にご無理をお願いし、英文による投稿を試みました。学校教育“Regular School Education”に対して『塾教育』を“Juku School Education”という言葉を使っています。いつの日か“Juku School Education”という言葉が一般的に使用されるようになることを願っています。また日本語本文につきましては『月刊私塾界』9月号に全文掲載されています。ホームページにも掲載しておりますので合わせてご覧いただければ幸いです。尚、英文・和文の本文、表紙の『ホームページ』・『教室だより』掲載につきましては国際教育学会並びに月刊私塾界のお許しを得ております。



上：学会にて発表中 下：表紙



Journal of Quality Education

Vol. 6

April, 2014

Contents

Fundamental Morals and Social Success

Kazuo Nishimura*, Junichi Hirata**, Junko Urasaka**, Tadashi Yagi****

* Interfaculty Initiatives in Social Sciences, Kobe University, RIETI Faculty Fellow

** College of International Management, Ritsumeikan Asia Pacific University

*** Faculty of Social Studies, Doshisha University

**** Faculty of Economics, Doshisha University

Structuralism Revisited : On the Basis of Self-nonselF Circulation Theory

Masatoshi Murase*, Tomoko Murase**

* Faculty of Yukawa Institute for Theoretical Physics, Kyoto University

** Faculty of School of Nursing, Japanese Red Cross Toyota College of Nursing

*** Faculty of School of Nursing, Japanese Red Cross Toyota College of Nursing

**** Faculty of School of Nursing, Japanese Red Cross Toyota College of Nursing

The Significance of Meta-cognitive Learning in Educational Process : An Analogy between Educational Process and Recovery Process from Illness

Tomoko Murase*, Masatoshi Murase**

* Faculty of School of Nursing, Japanese Red Cross Toyota College of Nursing

** Faculty of School of Nursing, Japanese Red Cross Toyota College of Nursing

*** Faculty of School of Nursing, Japanese Red Cross Toyota College of Nursing

**** Faculty of School of Nursing, Japanese Red Cross Toyota College of Nursing

Improving English Presentation Skills for Medical Students

Eiko Katagawa*

* Kobe College

Effects for Job Hunting in Internship of the Routine Work Type for a Short Period :

Reflection by Students who already Get Preliminary Offer of Hiring Focusing on Career Decision and Skill Acquisition

Kazuma Takeuchi*

* School of Global Studies, Tama University

Comparative study of information education in Japan and media education in Finland in elementary schools

Yutaro Ohashi*, Heikki Kynälahti**, Olli Vesterinen**, Anna Aarnio**, Jarkko Mylläri**, Sanna Vahtivuori-Hänninen**, Sara Sintonen**, Fumitoshi Kato***

* Faculty of Engineering, Nippon Institute of Technology, ** Faculty of Behavioural Sciences, University of Helsinki,

*** Faculty of Environment and Information Studies, Keio University

Designing an educational tourism program

Kana Ohashi*, Yutaro Ohashi**, Fumitoshi Kato***

* Graduate School of Media and Governance, Keio University, ** Faculty of Engineering, Nippon Institute of Technology,

*** Faculty of Environment and Information Studies, Keio University

Moral education policy "With the Aim of the Completion of Character" in Setagaya Ward

Masabumi Wakaida*

* Tokyo University of Agriculture, NODAI Research Institute

A Study of the Role of "Juku School Education"

Hidekazu Suhara*, Tetsuya Kagata**

* Suhara English and Math Juku School

** Osaka Kyokai University

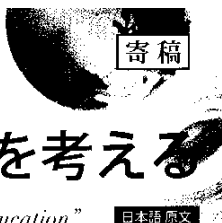
edited by International Society for Education and
Institute of Economic Research, Kyoto University

上：裏表紙 最下段に紹介されています

和田先生との対談

『月刊私塾界』編集長の山田未知之さんが東京からわざわざ私の教室に足を運んで下さり、『塾教育』の和文全文を9月号に掲載していただき、また灘中学校・高等学校校長和田孫博先生との思い出深い対談の機会を与えてもらいました。山田編集長には深く感謝しています。

11月号の対談記事と合わせて一部をここに記します。



『塾教育』の役割を考える

A Study of the Role of "Juku School Education"

日本語原文

2013年9月14日(土)国際教育学会の第8回公開シンポジウムが京都大学基礎物理学研究所湯川記念館パナニック国際交流ホールで開催された。テーマは「求められる教育、学力とモラル」。大阪府八尾市で須原英数教室を主宰する須原秀和塾長は、学会員の一人として、塾教育についての発表をおこない、その折に作成した資料の小冊子を同学会の機関紙に投稿した。

学会から「オビニオン」として採択され、半年余りの厳正な査読と2回にわたる修正の後、今年8月ようやく機関誌「Quality Education」へ掲載の運びとなった。

塾教育について国内の研究者が存在せず、著名な外国の研究者がおられるのみの状況において、須原氏は「塾教育」について「英文で世界に発信したい」との思いから、大阪教育大学英英語教育講座の加賀川哲也教授に本文の内容要約の英文翻訳を依頼したことから、先生には「無理を言って、其苦しい形で英文誌には掲載していただきたい」とのこと、今回の本誌にもその形で寄稿してもらっている。

須原氏にとっても初の論文となる当論文は、学会誌編集委員長の本郷社大学経済学部の八木匠二教授と、編集副委員長長の九州大学経営教育院の木村拓也准教授の耐強しい懇切丁寧な指導によって完成したという。Quality Educationには英文が掲載されているが、本誌には特別に日本語原文を掲載させていた。



地域に根付いて35年、須原英数教室・須原秀和塾長

「確かに本校の生徒たちは、勉強は得意だ。しかし、自分

そのほか、今後の塾教育に求められるものとして「社会教育だ」というれば自立心のある子どもが育つかについては「褒めること」など次々に意見が飛び



関西屈指の名門私学・灘中学校高等学校の和田孫博校長

「何をしたいか」という志を抱いている子が減った感はある。入試だけが勉強だと思っているというべきか、やや困惑した表情を見せた。つまり、受験がテクニック化してしまえば、勉強の意味や価値そのものが陳腐化したことがこのように形で表れているのだろう。これについては、塾業界にもその責任の一端がある。この事実を真摯に受け止めるべきではないだろうか。またその原因について、両氏とも「私は私」という個人主義が蔓延してきたからではないかと分析した。



異色の組み合わせとなった対談を拝聴するため、塾関係者のみならず学校関係者も多数出席した

真のエリート教育とは何か

交い対談は白熱、最後は真のエリート教育とは、締められた。両氏は、真のエリート観についてこう口を揃える。「エリート教育とは人間教育、勉強ができることがエリートではない。真のエリートとは、勉強で得た知識を土台に、人間性の豊かさによってそれを他者に還元できる人だ。」そして、「そういう人間を学校や塾で育てることを、教育と呼びたい」と熱い思いが語られた。

大阪大会

私塾界リーダーズフォーラム2014 Season2

新たな道をひらく

民間教育から考える教育格差の是正



特別対談
これからの私教育の可能性を問う
私学、私塾だからこそできる子供達への教育

須原秀和氏



和田孫博氏

1948年、大阪市生まれ。岡山大学法文学部法学科卒業。1979年、須原英数教室を開塾。これまで20年近く「小中高一貫」教育を提唱し、2013年に『塾教育』に関する論文を発表した。

1952年、大阪市生まれ。公立小学校から灘校へ、京都大学文学部卒業後、母校に英語科教諭として就職。野球部の監督・部長を務める。2007年より校長。

2014年9月28日(日) 13:00~18:00 (12:30 開場)

【会場】 グランフロント大阪ナレッジキャピタル 【受講料金】 正会員5名まで無料 準会員3名まで無料 一般は5,000円
【定員】 150名 カンファレンスルーム【主催】 株式会社私塾界 (全国私塾情報センター)

※ やむを得ず講師等が変更になる場合もございますので、あらかじめご了承下さい。
※ 講演の内容・タイトル・講演時間などは予定です。最新情報はWebサイトをご覧下さい。

誌上レポート

私塾界リーダーズフォーラム2014 Season2 大阪大会

今夏、会場やコンテンツもリニューアルし、装い新たにスタートを切った弊社セミナー「私塾界リーダーズフォーラム」。好評を博したSeason1を受けて、この秋、Season2として東京・大阪で再び開催。大阪大会は、まだ少し暑さの残る9月28日(日)、大阪キタの新名所・グランフロント大阪内「ナレッジキャピタル」で開催された。今回も各界の権威やスペシャリストが多数集まり、対談・パネルディスカッションなどを実施、約100名の塾関係者・学校教員らが熱心に耳を傾けた。



多くの参加者で盛況となった会場

スペシャルセッション1: 特別対談 「これからの私教育の可能性を問う」

名物塾長と、名門私学校長

第一部・特別対談に登壇したのは、大阪府八尾市の須原英数教室塾長・須原秀和氏と、名門・灘中学校・高等学校校長の和田孫博氏。

須原氏は、35年間にわたって個人塾というスタンスを頑なに守ってきた、生粋の塾長。しかし、独自の教育メソッドで帝大クラスに次々と塾生を送り出すなど、知る人ぞ知る塾長だ。また、その熱い教育理念に心酔する者は後を絶たず、塾関係者だけでなく関西の名だたる学校のリーダーらもそろって敬意を口にしている。

和田氏が校長を務める灘中学・高等学校は、もはや説

親子とも個人主義に陥り、勉強は、テクニックに

お題として口火を切ったのは、最近の子どもと、かつての子どもの違い。須原氏は「かつては塾に対し、入塾したからには勉強しなきゃ」という、ある種の敬意があった。しかし近年は、まじめに勉強する子が減り、保護者もそれをどう嘆けていいかわからない……

『私塾・私学・企業 教育ネット要覧』出版記念祝賀会

— 第1部 記念講演 第2部 基調講演 —

2013年9月22日（日）アルカディア市ヶ谷私学会館にて、『教育ネット要覧（第13集）』出版記念祝賀会が全日本学習塾連絡会議主催（代表幹事：英進学院塾長坂田義勝先生 事務局長：調布学園代表佐藤勇治先生）で催されました。その第一部での『記念講演』を私が行い、第二部での『基調講演』を下村博文文部科学大臣がされました。P. 4に掲載の『塾教育』発表を、関東の塾の先生方が高く評価して下さり、記念講演の機会を与えていただきました。『塾』に活気を取り戻していただきたいという思いが伝わったのか、講演途中拍手が巻き起こり、感激で胸が詰まり、声が上ずる場面もありました。坂田義勝先生や佐藤勇治先生をはじめとする、全日本学習塾連絡会議の先生方に心より感謝しています。資料として配布しました『塾教育』の原稿の評価も高く、英文翻訳をお引き受けいただいた大阪教育大学教授加賀田哲也先生もご挨拶をされました。私たち二人は下村文部科学大臣や京都大学の西村和雄先生と同じテーブルで食事をいただくという思いもかけない出来事に、私は少々緊張をいたしました。



上：講演後の記念撮影

下左：第1部記念講演の私 下右：ご挨拶される加賀田先生



私は政治とは、意識的に距離を置いて生きてきました。ですから正直なところ、政治家下村博文（はくぶん）先生のごことはよく存じません。しかし、インタビュー記事で綴られた育英会新聞『NEW あしながファミリー』や、著書『教育立国論』を拝読しますと、人間下村博文（本名：ひろふみ）先生には魅力を感じます。幼少期、お父様を交通事故で亡くされてから大学時代にかけての貧しい生活に、たいいていの場合その境遇や環境に不満や不平を持って当たり前なのにそれに負けず努力されたことや、学習障害児であった長男の子育てにおいて『愚かな父親であった』と述懐されているところなどは、私のように元祖『育メン』として子育てを経験した父親は、読んでいて心を打たれました。

塾業界の雑誌出版の老舗の一つ『塾ジャーナル（隔月誌：奇数月一日発行）』から、2013年9月号に『特集I 中学受験に隠された入試の本質』というテーマにて原稿を依頼され掲載されています。また、同年11月号

には国際教育学会での発表の様子と左記の出版記念祝賀会『記念講演』の様子が紹介されました。右にその『記念講演』の記事を掲載します。

塾ジャーナルより、掲載のお許しを得ています。

「塾教育」が世界の言葉になる日を夢見て

第一部の報告会は、全日本学習塾連絡協議会代表幹事の坂田義勝氏の開会の辞からスタート。

次に来賓として、文部科学省生涯学習政策局生涯学習推進課、民間教育事業振興室長の楠目聖（あきら）氏が登壇。続いて大阪教育大学英語教育講座教授の加賀田哲也氏が挨拶に立った。

加賀田氏は、今回の記念講演者であ

「記念講演」
「塾教育」
実践報告と今後の展望

須原英教教室長 須原 秀和氏

る須原秀和氏の学会発表資料の英文翻訳を担当。「須原先生は子どもたちに対してインストラクターではなく、父親として接しています。父親と子どもの信頼関係が構築されている塾だと感じています。これまでの塾は学校教育を補完するものでしたが、その補完を越えている塾だと思えます」と話した。



「塾教育」を学力や社会モラルの低下改善の「切り札」のひととして、広く社会に認識してほしいと須原氏

「学習塾百年の歴史」の中で、塾研究の世界的権威であるジュリアン・ディルケス氏が原稿を寄せられていました。私は塾に携わる者として、先生の研究に感謝と敬意を表しております。

須原氏は学会への出席を決心した動機について、塾関係者を前に熱い思いを語った。

「学習塾百年の歴史」の中で、塾研究の世界的権威であるジュリアン・ディルケス氏が原稿を寄せられていました。私は塾に携わる者として、先生の研究に感謝と敬意を表しております。

9月14日に開催された国際教育学会第8回公開シンポジウムにて、京都大学湯川記念館で学会発表を行った須原氏。今回は記念講演として、当日の発表をもう一度再現してくれた。

須原氏は「塾教育」を「家庭教育」「学校教育」「社会教育」に準じる第4の教育カテゴリーとして定義。家庭と学校、社会のそれぞれの教育の連携が希薄になっている今、塾教育はそれらを有機的に連結でき、学力低下、社会モラルの低下を食い止め、改善できる「切り札」のひとつと成り得る存在として、広く社会に認識してもらいたいと考えている。

しかし、ディルケス氏は冒頭に「塾の存在はよくないものだ。しかし、それはどうしようもないという言葉に揶揄されるように、いまだにや非法法でうさん臭い匂いがするもの事実である」と述べておられます。しかし、これは一部の事実かもしれませんが、すべての事実ではありません。私は35年間、非合法なこともうさん臭いこともやってきた覚えは一度もありません。皆さんもどうですか。一度もないでしょうか。

私のような研究者でもない塾講師が学会に出たら、失笑を買うかもしれない。しかし、このまま塾が誤解されたままではやりきれない。それが学会での発表を決めた理由です。

これまで縁の下力持ちとして、日本の教育を支えてきたのは塾ではありませんか。塾の存在がなければ、学力低下やモラルの低下はもっとひどいことになっていたことは、火を見るより明らかです。もうそろそろ縁の下から出てきて、もっと太陽の光を浴びたいのではないかと。そうした思いを学会発表にぶつけたつもりです。

塾教育「Juku School Education」の単語が世界で通用する日が来ることを、私は願っています」

私塾・私学・企業 教育ネット要覧
出版記念祝賀会開催

下村博文文部科学大臣を迎え
盛大に出版を祝う

2013年9月22日(日) アルカディア市ヶ谷会館 私立六館
主催：全日本学習塾連絡協議会

全日本学習塾連絡協議会同会発行の「私塾・私学・企業 教育ネット要覧 第13集」の出版の出版記念祝賀会・報告会・懇親会が9月22日(日)、アルカディア市ヶ谷にて開催された。第一部には記念講演、続く第二部では下村博文文部科学大臣が挨拶を行うなど、私学・塾関係者が一堂に集う盛大な会となった。

今年の受験を振り返って

— 大学受験と生徒諸君の体験記 —

大学受験生を送り出して20年近くになりますが、毎年新たな発見が生まれ経験を積むこととなります。特に今年は印象深い経験をいたしました。4人の浪人生を含め、受験生は15名いました。これまで浪人をしますと現役時代に受験した国公立大学にたいしては合格でき、悪くても関関同立には進学できていました。ところが今年は初めて関関同立どころか産近甲龍すら合格できない浪人生が出ました。それも2人です。私には信じられない厳しい経験でした。勉強に対する真摯な態度の欠如・浪人しても続く反抗期・基礎学力の無さなど原因が考えられます。予備校に通うことを条件に私の教室にも一週間に1・2度顔を出すようにさせておりましたが、私の前では『勉強しているふり』だけでした。『親に申し訳ないことをした』と反省している分だけ、親孝行な子に精神的成長はしてくれたのかなとプラス思考で考えていますが、大変残念な結果でした。『浪人すれば何とかなる』という甘い考えは捨てるようにと、今年の受験生諸君には厳しく話しています。

逆に素直に私の言うことに耳を傾けてくれた生徒諸君はやはり結果を出してくれています。久しぶりに京都大学への合格者が出ましたし、また6年間野球に明け暮れて野球には『完全燃焼』した子が、二浪しましたが念願の医学部に合格してくれました。『野球は完全燃焼できたかもしれないが、勉強には不完全燃焼どころか、まだ火もついていないのではないか？もう一度高校に行き直すつもりで三浪くらいすれば、なんとか医学部に合格できるかもしれない』と私は彼に話をしていただけに、二浪で済んだのは嬉しい誤算でした。大学受験も高校受験も中学受験もやはり素直で集中力のある生徒は合格できていますが、反抗期にあって素直でない子は結果が出なかったことを思い知らされた年でもありました。

私の教室の自慢は教え子たちが卒塾してから大変仲が良いことです。高校や大学の進学先が異なっても連絡を取り合い友達付き合いが続いている様子です。大学進学実績には高校3年生として私の教室を卒塾した生徒しか入れておりませんが、実は中学だけで高校からは通塾しなかった子や何らかの理由があって途中退塾した子たちでも、大学に合格できたことや就職したこと等を報告に来てくれる子がいます。普通、塾をやめた子がその塾を再度訪問すること等あまり考えられないことだと思いますが、それだけに私たち夫婦にとりましてはとても嬉しい瞬間です。今年は、関西大学・上智大学・龍谷大学・畿央大学・関西学院大学に合格・進学した5人が報告に来てくれています。6～7年前は小学生だった生徒たちです。その頃は生徒の数が多かったのだと思います。今は小学4年生から6年生まで合わせても、この一学年の半分くらいの塾生しかいません。時代の流れを感じます。

それでは今年の進学結果と累計の進学結果をお知らせし、そのあとで寄稿してくれた生徒諸君の体験記を載せます。先輩のアドバイスに耳を傾けてこれからの学習に役立ててもらえればと思います。

2015年度 進学結果

【大学受験の部】 13名

〔国公立大学〕 7名

○京都大学

工学部

天王寺3年

○大阪大学	経済学部	金光八尾 3年 関西学院大学国際学部も合格 関西学院大学経済学部も合格 同志社大学経済学部も合格
○神戸大学	法学部	高津 3年
○九州大学	工学部	大手前卒 同志社大学理工学部も合格
○大阪教育大学	教育学部	開明 3年 近畿大学理工学部も合格
○名古屋市立大学	芸術工学部	奈良学園 3年
○横浜市立大学	国際総合科学部	奈良カレッジ 3年 関西学院大学社会学部も合格

〔私立大学〕 6名

○関西医科大学	医学部	明星卒 新潟大学医学部も合格
○立命館大学	産業社会学部	上宮 3年
○立命館大学	経済学部	清風 3年
○関西学院大学	法学部	清風 3年
○大和大学	教育学部	住吉卒 畿央大学教育学部も合格
○奈良学園大学	人間教育学部	高津卒

【高校受験の部】 4名

〔公立高校〕 2名

○高津高校	普通科	南高安 近大附属スーパー文理特待生併願合格
○八尾高校	普通科	上之島 上宮プレップコース併願合格

〔私立高校〕 2名

○樟蔭高等学校	特進コース 専願	上之島
○上宮高等学校	プレップコース 専願	桂

【中学受験の部】 2名

〔とび級B 私立中学受験教室〕 2名

○上宮学園中学校	特進コース	南山本
○清教学園中学校	S特進コース I類	西山本

過去19年間の大学進学実績《2015.3.23.現在》

合格実績ではありません。進学実績です。愛すべき『居候』諸君149名の地味な努力の結果です。医学部医学科に1割に当たります14名が進学しています。

国立大学 55名

東京大学	3	理科Ⅲ類【医】	1	東大寺	文科Ⅰ類	2	東大寺2
京都大学	7	医学部【医】	1	星光	工学部	4	東大寺・天王寺2・明星
		農学部	2	清風・東大寺			
大阪大学	14	文学部	2	プール・大谷	外国語学部	1	住吉
		経済学部	2	西大和・金光八尾	法学部	1	天王寺
		工学部	5	清風・東大寺2・奈良学園・大手前			
		基礎工学部	2	明星・高津	人間科学部	1	東大寺
名古屋大学	1	工学部	1	星光			
九州大学	2	農学部	1	大手前	工学部	1	大手前
神戸大学	9	医学部【医】	2	灘・大谷	農学部	1	大手前
		工学部	1	八尾			
		法学部	3	高津2・明星	発達科学部	2	天王寺
奈良女子大学	2	文学部	1	高津	理学部	1	金光八尾
横浜国立大学	1	教育人間科学部	1	帝塚山			
三重大学	2	医学部【医】	1	東大寺	生物資源学部	1	高津
静岡大学	1	農学部	1	大谷			
岡山大学	1	医学部【医】	1	星光			
徳島大学	3	歯学部	1	開明	工学部	2	住吉・帝塚山
信州大学	1	工学部	1	高津			
愛媛大学	2	理学部	1	関西大倉	工学部	1	清風
高知大学	1	水産学部	1	近大附属			
京都工芸繊維大学	1	工芸学部	1	高津			
筑波大学	1	生命環境学群	1	清風			
富山大学	1	理学部	1	住吉			
琉球大学	1	農学部	1	住吉			
大阪教育大学	1	教育学部	1	開明			

公立大学 17名

大阪市立大学	9	医学部【医】	5	星光・東大寺3・四天王寺			
		理学部	2	高津・大谷			
		法学部	1	高津	商学部	1	明星
大阪府立大学	1	農学部	1	大手前			
京都府立医科大学	1	医学部【医】	1	東大寺			

岐阜県立薬科大学	1		1	高津	
兵庫県立大学	2	環境人間学部	1	帝塚山	理学部 1 高津
鳥取県立環境大学	1	経営学部	1	帝塚山	
名古屋市立大学	1	芸術工学部	1	奈良学園	
横浜市立大学	1	国際総合科学部	1	奈良カレッジ	

私立大学 77名

東京慈恵会医科大学	1	【医】	1	天王寺	
関西医科大学	1	【医】	1	明星	
慶応大学	3	文学部	1	帝塚山泉ヶ丘	経済学部 1 高津
		生命理工学部	1	奈良学園	
早稲田大学	2	理工学部	1	明星	創造理工学部 1 清風
麻布大学	1	獣医学部	1	西大和	
神戸薬科大学	1		1	プール	
大阪薬科大学	1		1	大谷	
京都薬科大学	1		1	近大付属	
関西学院大学	7	経済学部	4	帝塚山・高津・清風・住吉	
		法学部	3	帝塚山・高津・清風	
関西大学	5	工学部	3	近大附属・清風・明星	経済学部 1 清風
		社会学部	1	高津	
立命館大学	11	理工学部	1	明星	文学部 1 高津
		経営学部	2	帝塚山・清風	アジア太平洋学部 1 城星
		法学部	2	清風・初芝立命	政策科学部 1 住吉
		経済学部	1	高津	情報理工学部 1 奈良学園
		産業社会学部	1	上宮	
同志社大学	6	経済学部	1	高津	文学部 1 大教大附属天王寺
		理工学部	1	住吉	法学部 1 金光八尾
		文化情報学部	1	金光八尾	生命理工学部 1 上宮
近畿大学	8	薬学部など			

その他の私立大学 29名

過去14年間の高校進学実績《2015.3.23.現在》

合格実績ではありません。進学実績です。84名の生徒諸君の結果です。

◎高校受験 88名

大手前高校	5	理数科4 (東2・高安2)	文理学科1 (高安1)
天王寺高校	4	普通科3 (東1・曙川2)	文理学科1 (曙川1)
高津高校	19	普通科19 (曙川6・東4・上之島2・高安4・南高安2・	

新喜多 1)

住吉国際科学学校	1 1	東 1・上之島 3・高安 4・高美 1・曙川 2
八尾高校	7	高安 3・高美 1・曙川 1・桂 1・上之島 1
清水谷高校	1	南高安 1
夕陽丘高校	2	高安 1・曙川 1
布施高校	1	東 1
花園高校国際教養科	3	上之島 2・曙川 1
山本高校	1	曙川 1
国立長岡高等専門学校	1	上之島 1
桜宮高校	1	曙川 1
計		56名

清風南海高校・清風高校・開明高校・上宮高校・立命館高校・近大附属高校・城星学園・
金光八尾高校・東大谷高校・興国高校等私立専願者・併願者 国立陸上自衛隊高等工科高校
など 32名

13年前までには、天王寺高校理数科・高津高校・八尾高校などにおよそ半数の生徒が
進んでいます。

過去 13 年間の中学進学実績 《2015.1.31.現在》

合格実績ではありません。進学実績です。50名の生徒諸君の結果です。

◎中学受験 50名

【とび級 B=ハイレベル中学受験教室】 34名

東大寺学園	6	高安西 2・刑部 2・北高安 1・北山本 1
西大和学園	1	曙川 1
四天王寺	2	西山本 2
清風学園	6	刑部 2・中高安 2・高安西 2 (理Ⅲプレミアム 1・理Ⅲ 4・標準 1)
奈良学園	3	南山本 1・南高安 1・高安西 (医進 1・特進 2)
奈良カレッジ	4	西山本 1・刑部 1・南山本 1・美園 1
開明	1	高安西 1
大谷学園	2	上之島 1・南高安 1
関西大倉	1	高安西 1
近大附属	1	刑部 1
大阪女学院	1	東山本 1
城星	1	山本 1
金光八尾	3	山本 2 (特待生 2)・刑部 1 (特進 I 1)
上宮	1	南山本 1
清教	1	西山本 1

13年前に『とび級 B』ができる以前にも受験生がいて、東大寺学園に 2名・星光学院 1名・

大谷学園3名・大阪教育大学附属天王寺2名・明星2名・帝塚山・清風各1名などの12名の進学者がいます。

【とび級 A=公立中学進学教室】 8名

金光八尾 6 刑部2・高安西4（特待生1・特進Ⅰ2・特進Ⅱ3）
近大附属 1 高安西1（標準1）
城星 1 中高安1

【とび級 F=金光八尾中学受験教室】 8名 2005年度のみ臨時開設

金光八尾特待生2 高安西1・北高安1
特進3普通2 高安西2・高美1・刑部2
大阪産業大学附属1 山本1

大学受験体験記

原稿を依頼した生徒の内、15名が寄稿してくれています。正直に書いてくれることと、読んだときに読み手が不愉快に感じない表現にしてくれることだけはお願いしています。原文のままです。

- 『合格体験記』 入口 幸輝 15
開明高校出身 大阪教育大学進学
おとなしい真面目な子でした。加賀田先生にも可愛がっていただき幸せな子です。きっと良い先生になってくれるでしょう。
- 『楽しかった高校生活』 岩本 洋 16
清風高校出身 浪人
単身赴任されるお父さんから頼まれていましたが…、私の言うことも聞かず、本当に良く遊んでくれました。
- 『何とか勝ちとった合格』 内田 海優 18
奈良カレッジ高校出身 横浜市立大学進学
いつもにこにこしていて常にマイペースな子でした。もう少し勉強してもよかったのではと思います。
- 『卒塾に向けて』 宇野 圭人 20
上宮高校出身 立命館大学進学
ダンスが上手でテレビにも出ました。国公立をめざしていたはずなのに、いつの間にか推薦を受けていました。
- 『～浪人体験記～浪人を経て学んだもの』 小川 充津始 22
住吉高校卒 大和大学進学
今度こそ大学でしっかり勉強して欲しいと願っています。やればできる力を持っているのにもったいないです。
- 『合格体験記』 柴田 桂希 24
金光八尾高校出身 関西学院大学出身
途中退塾の子です。突然右目の視力を失い、つらかったらうと思います。原因が分からず、その不安や恐怖と闘いなが

ら、よくそこから立ち直ったものだと感心しています。妹二人も通塾していて、教室個人懇談会ではいつも正装して来訪される、今では数が少なくなった礼儀正しいご保護者の方です。

- 『京都大学合格体験記』 富井 択音 26
天王寺高校出身 京都大学進学
軽音楽部に所属しギターの練習やライブでの演奏など忙しい日々でした。でも勉強もよくやりました。お母さんが感心するくらいやったのですから、京都大学合格は納得の結果ですね。久しぶりに京大合格者が出て嬉しいです。
- 『合格体験記』 出原 祥希 27
金光八尾高校出身 大阪大学進学
アレルギー体質による体調不良で学校や塾を休むことも多かったですが、野球を続けながら勉強も大変よく頑張りました。
- 『大学受験体験記』 西田 茉佑子 29
大手前高校卒 九州大学進学
能力的には東大でも京大でも行ける力を持っていたと思います、作文の中で自分を正確によく見つめていると思います。本人も書いていますように、9月以降も『基礎の反復』をしていたら結果は変わっていたかもしれませんね。
- 『大学受験を振り返って』 東野 剛之 31
清風高校出身 立命館大学進学
5年間よく遊んでくれました。ただこの1年間は別人でした。お母さんも驚かれるくらい勉強に没頭していたようです。大学合格が決まってからも毎日のように来て勉強していました。その集中力と根気力は尋常ではありませんでした。
- 『合格体験記』 古田 理紗 32
高津高校出身 神戸大学進学
中学時代から地味な努力をコツコツと積み上げてくれたと思います。大学生活も持ち前のバイタリティを発揮して下さい。
- 『九年間を振り返って』 松原 千紘 34
奈良学園高校出身 名古屋市立大学進学
ほとんど毎日教室に来ていました。努力の塊のような子です。数学の確認テストはどの単元も5回はやっています。
- 『浪人生になってしまう勉強』 水野 千賀子 36
上宮高校出身 浪人
弟の入塾を機に高3から入塾した子です。今年こそ『基礎の反復』を忘れずに悔いのない一年にしてほしいです。
- 『九年間の戦い・受験という名の旅の終わり』 山岡 悠 37
近大附属高校出身 大阪大学進学
P. 3に出ているこの子も途中退塾した生徒です。センターに失敗しE判定だったそうですが、よく頑張りました。
- 『合格体験記』 吉崎 恭隆 41
明星高校卒 関西医科大学進学
何事にも集中できる子は初志を貫徹できるのだなと思わせる子です。よく2年間頑張ったと思います。

僕は当初から教育系の学科のある大学に進学し、教員免許を取って数学の先生になりたいということを考えていました。これまで、学校の先生や塾の先生方が生徒一人一人に向き合っている姿を見てきて、僕も教師という立場につき子供たちの未来を切り拓く大人になりたいと思うようになつたからです。それからパンフレットなどで色んな大学を調べていて、大阪教育大学が僕にとっていい学校だと思つていました。そして塾で加賀田先生に出会うことができたこともあり、大阪教育大学を目指そうということを決めました。

センター試験の配点は、素点そのままの950点満点でした。僕は国語かとも苦手だ。たのにもかかわらずと逃げてしまつていました。そして夏の須原先生との懇談の時、僕にこのままじゃダメだということを感じてく言っていたとき、国語の勉強のやり方を教えてもらつたので、夏休みからは毎日少しずつその勉強を続けていきました。その勉強方法というのは、まずセンター国語を切り取り、ノートの上やページにセンターの文章を貼つていき、下ページには問題文だけを貼り付けます。ここで選択肢は別のノートに貼っておきます。この勉強法は選択肢を見ずに問題を解くことで考える力を養つていく

ことが目的でした。約10日で1年分をやることを目標にしてやつていました。そして学校の授業で教えていただいたセンターの解き方も参考にして、ずっと勉強をしていきました。本番では前年よりも易しくなつていたというところもあるかもしれませんが、大きく失敗することはありませんでした。しかし半年という短い期間だ、ということもあり、やはり決して満足したという結果ではありませんでした。これから国語を伸ばしたいと思う人はこの方法をやってみてはいいかと思えます。そしてやり始めるのは早い方がいいです。須原先生がいつも仰つているように国語の勉強は1日15分でもいいので毎日やればうかいいと思います。

センター試験が終わり、結果は、希望していた学科を受けることができた成績ではありませんでした。試験が終わつてから、僕は他の大学に行こうかと思つていました。しかし大阪教育大でも、情報科学科なら合格の可能性があるということを高校の担任の先生に教えていただきました。ですから僕はここに合格するために前期試験までの1か月勉強しました。数学が400点、物理が200点という配点でした。物理は赤本を解きつつ今まで使つてきた参考書を見返し、問題集を解いていきました。数学も同様に、赤本や問題集を解いたりしていました。そしてもう一つ、数Ⅲの青チャートの確認テストを行いました。これはほかの人たちがやつていたのを見ていて

僕もや。たほうがいいと思いました。結局、前期試験までに各単元を周回しやりました。確認テストなどをや。たおかげで、数学に關してはかなりの自信がつかまりました。本番では、物理は大きな失敗はなく、各大問最後の1問2問以外はある程度書けていて、数学は手こたえがすくくあり、大問4つ中2つは完答でまともな思いました。合格発表が近づいていた時、合格しているかどうか不安でしたが、須原先生に入口君は心配ないと言われたことによつても安心できました。実際合格できて本当にうれしかったです。

希望の大学に合格するには、自分の努力も当然必要ですが、先生方のサポートがなければたどり着くことはできなかつたと思います。須原先生には速読英単語の仕上げ編や数学の確認テスト、ゼミノートを作ってもらった。高校の先生方にも僕の質問にきちんと答えていただいたので、希望していた大学に入学することができました。僕はたくさんの先生に助けられました。後輩の皆さんは須原先生や学校の先生のことを頼りにしてほしいと思います。一生懸命先生と向き合うことができれば、絶対に助けをもらえると思います。僕もそうでした。素晴らしい先生方に出会えたからこそ教師を目指そうという目標をもつて勉強してきました。後輩の皆さんにも何らかの目標をもつて勉強してほしいです。

楽しかった高校生活
岩本 洋

清風高校 出身
駿台予備校

僕は大学受験に失敗しました。失敗した原因は、勉強不足です。現役を受験生に比べて、僕はとても悪い例だと思います。部活が終わって家に帰るとバタンキコトでそれが高専三年の5月まで続きました。本当に絵に描いた様子を思い例ですか、僕自身にとつては、この高専三年間は、とても楽しかったです。バスケットボール部に入り、厳しい練習を引退するまでやり抜いて、そして、練習の替えのよい友達、尊敬のできる先輩方、僕の事を慕ってく水子後輩達から沢山いただきました。でもからこの高専生活は、一生記憶に残ると思います。でもから勉強はまた別です。僕が言える事は、ほとんどもありませんか、一つ言える事は、「基礎」は本当に大切なという事です。センター試験で痛感しました。この科目でも言える事々々の方が、特に数学は基礎を疎かにすると、本当に痛い目を見ます。清風では、毎年センターマラソンという、センター試験の演習を、センター試験の1ヶ月前から毎日行う講座があるのですが、僕はそれまで数IAはハズレ割、IBは7割程をキープできていた。ので、センター前は、特に数学の基礎の反復はしていませんでした。そしてセンター試験本番で、IAは、公式を少し間違ひ、大問を一つ丸々落として、IBに至っては、意

味のわがうない大間までありました。結果、理系科目は
 学校でやったセンター演習の平均より、百点近く下がり
 ました。このような事を重前に防ぐには、やはり基礎の
 反復、カード演習だと思いました。一度解けた問題も、
 間違ってしまった問題も、それ、きりにしてしまっ
 やつていないのとほとんど変わりないと思えます。須原
 先生の言うように、三日四回と繰り返し解いて、その問
 題を見ただけで、解き方がおぼろげに浮かぶくらいまで
 する事は、大切な事だと思いました。
 これは僕の身をもつて体験した話です。僕は理系なの
 だ。理科がたのきで、化学も生物もさうさうだめでは
 ない。でも夏休みに化学だけを勉強しました。うちと
 あり模試で、めっちゃくちゃ苦かったです。た化学が、軽く偏差
 値50を超え、もう安心だと思いい、9月からは生物のセミ
 ート作りを始めました。作ったゼミノートを毎週欠かさ
 ず見ていました。するとセンター試験で、生物は良くて
 化学はホロボロ下した。なぜなら、夏以来化学は手をつ
 けなかつたからです。この経験で、僕は繰り返し大切
 さを身をもつて知りました。この生物も、また欣つてお
 いたう、化学よりも面白い事になると思えます。生物は、
 物理や化学と比べると、覚えやすい半端じやないから下
 才。物理下暗記が苦手な事は、約百個、化学下覚えやすい
 事項は約三百個、生物下覚えやすい事項は、約三千八百
 個と言われている。生物を選ばせている人は、早めに

取りかかると事をおさめします。
 話かきよくそれてしまいました。勉強は基礎の繰り返し
 し、本当にこれだと思えます。僕もこの基礎の反復を忘
 れずに、もう一年頑張りたいと思います。

何とか勝ちと、た合格

内田 海優

智辯学園奈良カレッジ高等学校出身

横濱市立大学 国際総合科学部

親戚の紹介で小学校四年生から須原英教教室に私は通い始めました。そして、五年生から受験勉強もし、私立の中高一貫校である智辯学園奈良カレッジに入学しました。

中学に入学した当時、私は勉強意欲に燃えていました。なぜかというところ、私には他に志望しなかった中学校がありましたが、その学校は不合格だったという悔しい思い出があります。たからとす。私の学校ではクラスがニクラスに分かれたおり、A組は成績上位者、B組は下位者のクラスとされた。私は入学当初B組だったりで、何となくA組に入り、不合格だったあり学校に入学した人たちよりも大学受験では上の学校へ行くとせうう、をう思いながら頑張りました。しかし、私のそのようは気持ちも、勉強に对する意欲も急願りA組に入ることになった瞬間、徐々に奪れたいました。一年後には結局、再びB組に落ちた。二からは友達と遊ぶことに没頭したりで、中学校三年間の定期テストは下から四割り一までにも下が、とい、たのてす。

それとも私が焦りなかつたのは定期テストが悪くとも模試の成績が良かったからとす。中学の間は特に英語と数学に関しては一ツ上の学年と塾で授業を受けうこと

もあ、たのて特に英語は得意科目だ。たレ、国語も同様小学校の頃から得意だった、たのて数学が多少悪くとも英語がカバーができていたからとす。

そのようの中、私が受験を意識し始めたのは高校一年生のときとす。学校では志望校を決定し、予備校や塾に通う友達が増え、塾でも二テテストが始ま、たことか原因とす。志望校は私は雑誌の編集者になりたいという夢があ、たのて出版社が多い関東地区に目を向け、一ツの学部が多様な学問が学べる一橋大学を志望することに決まりました。須原先生がよくお、し、る数学の青チャートの中、理科のセミノート、社会の書三込は或は高一からとろあえすせうばいと、と思いい実力の奮えとす。作成していきました。た、またまた時間はあるか、た、又たと思いい込しノロノロとされた。た、取ノ組んごいしました。た、た、速読英単語だけは別とす。塾と今まで共にや、た。また私立中高一貫校の友達たちや二人ほど私上ノ先に一回目を終えたのて息。と取ノ組んごいしました。高校二年までとはす、とそりようは調子だ。たのて、英語の成績は良かったけれど、他教科、特に嫌いな理系科目に關しては現状維持のころか低下傾向にありました。

そして高三になる前の春休、ようやく本格的に受験勉強を始めようと思いい始め、朝、もしくは昼から塾に行き、た、た、セミノートの完成を目指しました。集中講座の間に速読英単語をやると決めた。一日十個を目標に仕と

げ編に取らせました。春休が終わった頃何とせよ
 ノートは完成し、カードと書と込めれば終えよことか
 ぶせとせよ。結局、高三からは補習も始まり、思
 った通りに時間が使えなくなっ、カードと書と込めれば夏休
 け明けまで完成するよことかよとせよ。二カ時
 カードは学校では高校教員が中三からせよ、こいよりだ
 り、もよよとコソコソと時間があつた時に春には完成し
 た状態にせよ。たよと悔やせよ。しかし、そ
 ぐろカードも作せよ。たよといふことよ、意味があ
 るよにはあつたよ。夏休明け明けの筆記
 模試で少し成績が上がつたよ。夏休明けは英語は苦
 手な文法と学校で使つていた参考書で総復習し、教員
 はカードよ、苦手だがと最後のこよ、こいよりだ
 よと終わらせよ。そよりおかげであつたよ、教員は少
 るよといひたよ。しかし、目標としていた一橋大に
 入らぬよ、全然届かぬよ成績よ。学校の先生からよ、そ
 望望と変えよ。たよがいよ、たよいよ、何屋も言われ、少
 し方よ、私よ、たよだよ、思つたよ、たよ、たよ、たよ
 元がいよ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ
 してよ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ
 たよ。たよ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ
 ター対策はたよ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ
 王読んたよ、連単よ、理科はせよ、社会は書よ
 込め、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ

センター対策のポイントを、たよ、たよ、たよ、たよ
 けは学校でも、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ
 ぶつり、結局、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ
 ぶつりの持ち腐れ状態にたよ、たよ、たよ、たよ、たよ
 ンター。初日はたよ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ
 ように感じられてたよ。問題は二日目よ、二日目は教
 学エッセンスに関よ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ
 せよ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ
 けば、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ
 頭が真、白にたよ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ
 ぶ以外も社会、理科が思つたよ、たよ、たよ、たよ、たよ
 ぶよ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ
 ぶ、二日間はたよ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ
 三日後には出願可能校を探さよ、たよ、たよ、たよ、たよ
 ぶ直り、予備校の判定よ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ
 定よ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ
 ぶ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ
 校間と提携してたよ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ
 二次試験対策は英語と小論文が二次の科目だ、たよ、たよ
 英語に特に重点を置いと、勉強してたよ。連単は二月に入
 るよ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ
 たよ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ
 教養が医学部医学部科目と問題玉使用してたよ、たよ、たよ
 が専門的、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ
 たよ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ、たよ

ら、と読んだので、ソングメタリヤという速報にもとを
 のジャンルのキーワード集を解説がついたという本を北
 米知識を叩けたいのに読め、とにかく英語に触れたい
 過去問は英語に閉じこもる二年しか解きませんでしたが、
 それで充分でした。小論文は須原先生の「教授の雑談」が
 考えていたことが使えたので、役に立ちました。そして
 本書。正直本一ターミネーション以上の上下だ。たので自信は
 ありませぬでしたが、とにかく落ちついて作戦通りや
 こころがけました。私り作戦というのは大問三つに好
 し、二問を完全に解き、三問目は足しにする程度に解く
 といふつもりで時間が足りなかった。対策を考えたものでし
 た。本書はそり通り最初二問を丁寧に解き最後は穴抜け
 の状態で提出しました。周回の人には皆、定評しこいた
 び、もうダメな今年は簡単なた、たかと思いはした。し
 がし、合格発表の日、自分の着があの驚きました。周
 りは皆落ちた。いたのでせよ作戦が効いた。今では思
 いませぬ。おきにセンターが急が。たが、二回で挽回さ
 じ晴れか、たが。センターが急が。たが、二回で挽回さ
 と打たさうな。たが。センターが急が。たが、二回で挽回さ
 本を積み上げるといふことが大切だ。た。二回試験は
 心こめて自信が合符に。た。私は三年間速報を十四冊、た
 を。い。自信が合符に。た。私は三年間速報を十四冊、た
 基本のこり。た。私は三年間速報を十四冊、た
 本手に。た。私は三年間速報を十四冊、た

卒業生に。卒 生 人
 上宮高等学校出身
 立命館大学産業社会学部進学
 まず大学合格についての行きたいことを話します。私は三
 年生の8月に立命館の産業社会学部を見つけてきました。こ
 れまでは物理が好きで、その物理系の進路を目指して
 いました。しかし、今自分が見たいことではなく、将来
 自分が見たいことを学びたいと思いました。そして立命
 の産社一はA0入試があり、準備期間が短く、そして立命
 センズが挑戦することになりました。
 A0方式では、自己推薦小論文、小論文テスト、面接
 の三つを使用します。私は理系で三年間現代文の授業が
 なく不安がありました。しかし、須原先生、顧問の先生
 予備校で小論文を教えた先生、A0入試で進路を決
 めた先輩など多くの人に助けられました。須原先生
 にしてもらう、下添作は、今解き教室を思い出して感
 謝しました。提出するときに須原先生に、「良く書いてい
 ました」と言われたのは自信になりました。
 自己推薦文を書くときに大切なのは、自分のアピール
 と目標への動機を少しも関係させること。目標を明確
 にし受験する大学でなければならぬというのを伝え
 ること、この二つが大切だと思います。面接でも同じ
 す。
 五してもう一つ、最も大切なのは自分を信じていること

す。これは私がダンスをしていて思っただことです。自分
 はできると思うのが嬉しければ、周りは大したことはない
 と思えば良いのです。これは須原先生がおっしゃるこ
 り言葉の、
 「自分の解けない問題は用いても解けていないと思えばい
 い」
 というのと思いです。つまり、周りを気にするのではなく、
 自分の方を信じて実力を出し切る事が大切だと言うこ
 とです。これは本来に使えるのでも勝負所の前にはホ
 ティエイブイミーゾトレーニングをしてきたこと。そ
 れも直前ではなく前日の方が良いです。私も担任の先生
 には内申点などから、絶対には落ちる。と言われていまし
 たが自身を持って受けることができました。
 Aの入試は一般的には楽しんで合格しようというイミ
 ジがあります。Aの入試も甘くはありません。たしか
 にテストのための勉強は必要ないですが、小論文の勉強
 や専門的な知識など大変な部分もあります。しかし、自
 分のしよした活動や考えを伝えようと思えば、錯誤するの
 は面白いでしょう。何より評価されて合格したときは達成感
 があります。たがう方法の一つにAの入試を考えこめるの
 も良いと思います。
 私は小学五年生からの8年間須原英数教室通わせてい
 ました。友達に誘われて通い始めたのですが、初
 めて受けた授業は学校のゆくりとした進行とは違って

少数で次々と進んで行くのが楽しかったです。少数教
 のためわがやないところを互いのときには理解できて勉強を
 楽しめるようになった。
 勉強だけでなく、いろいろなことをさせてもらいまし
 た。教室での輪投げ大会や映画鑑賞、潮干狩りにも連れ
 て行ってもらいました。教室での合宿もさせてもらいま
 した。良い思い出ばかりです。
 いつも先生が読む雑談は面白い話から興味深い話まで
 様々で、須原英数教室の本質はここにあると思えます。
 勉強だけでなく、先輩・後輩・学校の先生、いろいろな
 人とのつながり人間関係、人生を楽しくする方法を学ぶ教室
 です。人間味溢れる教室はここも楽しかったです。悩ん
 だときには相談に行かせてください。8年間お世話にな
 りました。
 ありがとうございます。

浪人体験記 浪人を経て学んだもの 小川 元津始
大阪府立住吉高校出身
大和人学進学

僕が須原英数教室に通い始めたのは、僕が小学校を卒業し中学校に進学する前でした。秀和先生が指導してくださる数学、きよれ先生が指導してくださる英語、両方とも主に中学校の教科書に沿って行われていました。この頃、高校生によく話されている「学校の授業を大切にする」という基礎をしっかりとやりぬくことが実践されてきたのだと振り返って感じました。

さて、これから僕の浪人体験記に入ります。僕の中学校は一年生で八十人しかおらず、内申点の十段階評価で十が一人しか得られず、競争の中で、僕は内申点を十分に得られませんでした。秀和先生、きよれ先生のおかげで住吉高校に進学することになりました。秀和先生に褒められたことと覚えています。しかし、入学してから完全に勉強しなくなりました。通知表も秀和先生に見せられなくなりました。そして勉強が嫌になり、連絡も無しに教室を休め、さらに喫煙で停学になりました。この時、辞めてやらせておかしくありませんでした。三年生になり周りも受験モードに入りました。少しは勉強したつもりですが結果は嘘をつきません。センター試験はどの国公立にも見込めがありませんでした。すると親に申し訳はしとばかり思いました。

両親に頼れこんで浪人させてもらうことになりました。浪人した当初は、必ず大阪教育大学に合格してやる。という気持ちに溢れていました。ここで、なぜ大阪教育大学を第一志望にしたかという話は、小・中・高の先生では無く、障がいの子供を教育するときに興味があったからです。なので、大阪教育大学の特別支援学料を志望して行きました。

浪人してからの時間の経過は非常に速く、すぐに夏期に入りました。須原英数教室で勉強していると、京都工業繊維大学に進学された北村先輩が訪ねてきてくれました。北村先輩の話によると、数学は青チャートの例題カードを、英語は速読英単語をひたすらやっていました。とおっしゃっており、普段、秀和先生が僕たちにおっしゃっていた力事と全く同じでした。そのことを素直に聞いて、一生懸命やっていければ良かったと思います。なので、受験生の方には、先輩、先生の助言を素直に受け入れ、青チャートやフーカスゴールの例題のカードと速読英単語を多く読むことは最低限してほしいです。夏期が終了し、現役生が追い込んでいる時に模試の成績が上がり、合格しました。若しんてい力時に助けたのだから、同じ浪人していた仲間でした。友達をたくさん作らなくていいので、しんてい時、支え合える仲間を、浪人を決意

した方は見つめてください。僕は現代文が苦手で全く点数が伸びませんでした。秀和先生には一日二十分を現代文の勉強に費やすよう助言をいただいたうえ、センター試験の過去問に手を加えて、記述式の教材を作ってもらいました。僕は理科、社会科目に時間を使っていたので、全然やっていたませんでした。今思えば、切羽詰まっていた心に余裕がありませんでした。

そして、センター試験前日まで心の余裕の無さは続きました。前日もかかわらず、予備校で過去問をしており、秀和先生の激励のお電話に返信できませんでした。そんな余裕のない状態を迎えたセンター試験は思うようにはならず、昨年よりもひどい点数になりました。本命であった大阪教育大学には合格できず、私立の入和大学に進学を決めました。本当に浪人して勉強してたのかと思いましたが、たのたのたと思いません。

しかし、浪人して良かったと思ふこともありません。確かに一年間の受験勉強は今まで逃げてきた僕にとって手ごたえです。しかし、次第に一年間も勉強に専念できると考え方が前向きに変わりました。一年間、予備校に通わせてもらった親への感謝や勘当せず面倒を見てくれた秀和先生、きよし先生への感謝の気持ちが増えました。もし、須原英教教室を離れていたら、路頭に迷

自分の将来の夢も見失っていました。自分の目標を決めし、かりと進めてい方は、秀和先生、きよし先生、そして須原英教教室で共に勉強した仲間のおかげです。

金九八尾高等学校

関西学院大学

僕は中学生二年生の時に塾を辞めてしまいました。その

時の僕は極度の反抗期で、親にたいしては、須原先生

にも反抗し、案の上、ある日先生と口論になりそのま

塾をやめ、当然のことながら塾には行きませんでした。

高校生になり、て自分の反抗期が少し控へぬけな

クラブに熱中しすぎた反動として成績が振るわなくな

勉強もあまのしなくな、た頃、何を思ふたか、ふと須

原塾に行こうと思、塾の前に行きました。普通に若

ふたう、辞めた塾、しかも喧嘩別れした先生に会おうと

するほど自体異常かつ無礼なことだと思、一瞬ためら

つつ、そのまゝ先生と会いました。最初の先生の言葉は

どんな怒りの言葉なのか、追いつかぬのではな

先生の顔をみた途端、怖くてしがたなが、長びす、でも

先生の第一声は「元気にしてたか」という言葉でした

その言葉も聞いて、おびした気持ちには消え、そのまゝ謝

る言葉なく、家族の事や、学校や普段の生活の愚痴を聞

いてもらった。相談に付き合、てもう、たりして過

て、一時間程話してそのまゝ帰りました。それ以来僕は

先生に成績を見せに行ったり、相談に付き合、てもら

たりしてソました。

この春休みには僕は右目が凹鏡角膜炎という病気に罹った。右目の視力がほぼゼロに落ち、てしまいました。この春休みから夏休みに受験勉強をしようと思、ていた矢先、こうな、てしま、たので、本当に焦りました。「自分だけか」と思、た目付合のやめられ、後悔や嘆いた。抑まりかいて、反抗期もまたぶり返し、もはや受験生には言、ない高校生にな、てしま、ました。受験勉強とい、ゆる勉強をしないまま、高校三年生の夏休みに入りました。反抗期はぶり返し、勉強もほとんどなくな、た。その時に、母が僕のせいで入院することになりました。その母の入院が始ま、た頃は、入院のお見舞に書く手紙はなれませんでした。自分が悪いと主張した、この罪悪感からなのか、自分が悪くないと主張した、この罪悪感が常に頭から離れず、とても苦しんでいました。誰か責めたり明けた、相談した、気持ちもよまらなくな、た。とうとう暴露しました。その相手が須原先生でした。先生は当然僕を叱りました。でもた、た怒るだけではなく、僕の意見も耳を傾けて聞いてくれました。それのおかげで自分は悪くない、という気持ちにはなくな、た。謝りたい気持ちで満たされて、そのまますぐに母の入院先に行きました。それに付き合、た。つ、おめ、た。謝、た。後涙が溢れま、た。それと同時に、受験勉強のスイングが入りま、た。でも今更や、ても、関西学院はもう、国立を目指す他の受験生に追いつける訳がない、まして、周りに

運、て目が健康し、ないソ、ハンドを背負、てるんだ
 と投げ出し、そうにな、た事もたくさんあ、たけど、その
 度に出でくる、入院服を着た母親の姿を見に行き、ここ
 であきらめたら僕は何もできない、また迷惑をかけるた
 けれど、絶対愛が、たしわん、ていつ言葉そバの中で練ソ
 返し、ほん、こうに死ぬ気て勉強をしました。そんな日々
 を夏休みから送り始めて、センター試験が近づいた頃、
 私大の願書のしゅきソが迫、ていきました。どク大学を受
 けるべきなのか、どの学部を受取るのか、何校受けてい
 いうか、そんなことを父親に相談した時、大学、学部に
 ついては父親はなにも言わな、たけど、受ける校数に
 関しては、くつでも受けるこ、言、てくくれました。結局
 僕は十二校の試験を申し、こみました。
 センター当日家族皆が、かんは水で励ましてくれたお
 かげで緊張は何一つなく、ベストな状態で試験に臨め、
 自己採点の結果も思、てた以上に、自分の目指して、いた
 大学のポーターよりも上で、大船に乗、たつもりで、私
 大の試験を、一つ一つ受けて行き、結果を待、ただけとなり
 ました。秋大のラストの出来はどれもイマイチで、良人を
 覚悟しなければと思、てた時、近大の発表があ、り、特待
 生で合格して、お、り、そのしはうくた、て、私大で最も行
 きたが、た関学も受か、て、残ソは国立の試験、僕の目
 指していた国立はいわゆる地方の大学で、関西学院大学
 はどのブランドはない学校であ、たけれど、自分のあ、こが

れの田舎暮らしができるソ、ソ、ソ、こ、て、卒業の面、て考、行
 てきるのではないかと思、ていました。でも思、ていた
 おりの関学のポラン、ライ、アの事業の充実を考えた、ら、神
 めされない、気持ちがあ、りました。そんなことを思、いなが
 らニ次対策を、して、いた、ら、父親が、関学に行、きたソ、ソ、ヤ
 、た、う、行、り、よ、僕が、残、せる、財産、は、金、じゃ、なく、学、歴、た、
 、こ、言、て、く、れ、た、り、で、国立、は、受、け、ず、二、月、の、中、旬、で、僕、の、受
 験、は、終、わ、り、ま、し、た、
 こんな破天荒な大学までの道のソ、で後輩に伝えた、いの
 は、ベタなこ、こ、か、もし、れ、ない、で、す、が、い、う、何、が、起、こ、る、の
 か、分、か、ら、ない、ので、受験勉強を、始、める、の、が、早、い、て、こ、こ
 はない、と思、て、い、く、こ、こ、で、自、分、は、両、親、の、協、力、が、あ、り、て
 こ、こ、今、勉強が、で、き、て、い、る、ん、だ、て、気、づ、く、こ、こ、こ、の、二
 つ、を、バ、の、ど、こ、か、で、留、め、て、も、ら、え、れ、ば、幸、い、で、す、
 矢、は、今、ま、あ、り、が、て、う、ご、さ、い、ま、し、た、
 がんば、て、三、回、で、も、楽、しく、生、き、て、い、き、ま、す、
 柴田 桂希

僕が志望校を京都大学に確定したのは2年の中頃でした。1年の頃は京大を人て遠い存在だと思っていました。目標は高く持つこと、できれば近畿がいいと思いい、京大を目標に設定しているうちに、本気で京大に行きたいと思うようになりました。

勉強面については、僕は1・2年のころは普段は最低限の予習や提出物をやるだけで、テスト2週間前くらいから真面目にやり始めて、人とがテストではそれなりの成績を収めるという感じでした。でも、直前詰め込み型では忘れるのも早く、3年になってから1・2年の内容を習ったとき、定着させておけばよか、たと思いました。

3年の序盤は、最後の運動会の練習と、引退直前の部活で本当に忙しか、たので、その最中であ、た。その間、調査では、この忙しい時期に勉強も両立して、い、うようにしたか、たので、勉強も頑張、て過去最高の席次を取りました。部活の引退までは、かなり部活に時間を取られてしま、うので、朝を、活用しようと思、立て、始業時刻の1時間前に学校へ行き、勉強の時間を確保して、い、ました。9月に引退してからは、すぐに勉強モードに切り換、えました。家にいると、色々な誘惑があるので、でき、るだけ学校で勉強して、い、ました。夏に、相手を、知ると、い、う

ことで、京大を目指すに当た、て、どう、い、う勉強をすれば、い、いのかを、知、り、たく、て、河合塾の夏期講習に行、て、み、ま、した。京大に、向、け、た勉強は、こ、ん、な、感、い、な、の、か、て、良、い、収、獲、も、あ、り、ま、し、た、か、そ、れ、さ、え、分、か、れ、ば、あ、と、は、自、分、な、り、に、や、ろ、う、と、思、い、河、合、の、講、習、は、そ、れ、き、り、に、し、ま、し、た。9月、に、文、化、祭、が、あ、り、最、後、の、軽、音、を、や、り、ま、し、た。文、化、祭、の、あ、と、は、ひ、た、す、ら、勉強一筋でした。朝7時すぎに学校へ行き、1時間勉強し、3時半に学校が終、わ、て、か、ら、は、6時半ま、で、残、て、自、習、を、し、そ、の、後、は、須、原、先、生、の、と、こ、ろ、が、家、が、で、勉強し、1・2時には寝て、い、ま、し、た。た、ま、に、放、課、後、友、達、と、お、喋、り、を、す、る、時、間、を、つ、く、た、り、し、て、適、度、に、息、抜、き、を、し、て、い、ま、し、た。

次に、具体的にと、ん、な、勉強を、し、た、か、を、書、き、ま、す。1・2年の頃は、僕は数学は得意と思、て、い、た、の、で、チ、ャ、1・トのカードは何度か、や、つ、て、み、た、た、け、で、ろ、く、に、し、て、ま、せ、ん、で、し、た。3年で本格的に勉強を、始、め、て、か、ら、も、と、数、学、を、や、ら、な、い、と、い、け、な、い、と、感、じ、基、本、を、身、に、つ、け、る、に、は、と、う、す、れ、ば、よ、い、か、を、考、え、た、さ、や、ぱ、り、導、き、出、た、答、え、は、チ、ャ、1・トのカードで、し、た。で、き、る、問、題、を、や、る、時、間、は、惜、し、い、と、思、い、知、つ、て、お、き、た、い、と、思、つ、た。た、例、題、を、選、抜、し、ま、し、た。数学は、あ、と、は、学、校、で、扱、つ、た、問、題、で、間、違、え、た、も、の、や、良、問、と、思、つ、た。も、の、を、何、度、も、や、り、ま、し、た。こ、れ、は、是、非、受、験、生、に、お、す、す、め、し、た、い、の、で、お、か、間、違、え、た、問、題、で、こ、の、ひ、ら、め、き、か、あ、ら、ば、解、け、た、の、に、ノ、と、い、う、と、こ、ろ、や、他、に、応、用、で、き、

そうな解き方などを何かにメモしていくのがいいと思っ
 ます。ひらめきの引き出しを増やせし、僕自身入試が
 始まる直前はそのメモを見ていました。次に理科につい
 てです。化学は重要問題集、物理は体系物理を何度も何
 度もやりました。10月ぐさいに赤本に手をつけてみたの
 ですが、まだ早いと感じ、またその2冊に戻りました。
 理科は問題集だけでなく、授業の教科書やノートが理解
 をしても助けにくかったです。理科もおろそめの勉強法が
 あります。単純ですが、苦手なところ、理解しきれない
 ない分野を自分なりにまとめるノートを作ることです。
 僕は大事な部分をオレシジャンで書き、赤シートで学習
 できるようにしていました。自分の不十分なところはほそ
 のノートに書いてあるので、模試や本番の前に確認する
 と効果絶大です。
 京大は基本できていればある程度は対応できますが、
 特殊な問題が多いので、京大の問題に慣れるというのがも
 重要な学習だ、たと思えます。赤本は25ヶ年も買、こ
 センターまでに半分ぐさいや、ていしました。問題に慣れ
 るとい、てもや、やりまは基礎です。別に難しい問題
 をやる必要はないと思えます。僕はひたすら基礎をや、
 て、難しい問題は、こんなん解けなくとも受かると見切
 りをつけていました。須原英教教育のスタイルに自分で
 勉強する力を養、てもさいました。能動的に、苦痛にな
 らず、効率の良い勉強が大切だと思えます。

「合格体験記」
 出原 祥希
 金光八尾高校出身
 大阪大学経済学部進学
 僕は金光八尾中学校、高校出身ですが、金光八尾とい
 うば、厳しいところ、うこと有名だと思えます。まず
 最初に金光八尾で学んだことに、いくつか述べたい
 と思えます。一つ目は「厳しい」。頭脳見が良いと
 いうこと、たと思えますが、僕が受験勉強して、いく
 学んだことは「面倒見が良い」からといって、それに甘
 えて、ろはかりで、自分こそ努力もしていないとい
 一つの間に成績が伸びる、なるとい、うこと、や、は
 り人には、個人個人の進め方やスピード、記憶方法、効
 率の良いやり方など様々に異なる、て、ろのが、当たら
 ず。先生方のあ、し、や、ることに、身をかたむけること
 り、ろ、大切なこと、て、た、た、た、た、た、た、た、た、
 し、自分だけのやり方を、見つけて、ほ、い、と思、え、ま、す、
 して、須原先生がよくお、し、や、う、れ、て、い、る、よ、う、に、自、学、
 自習を大切にして、ほ、い、と思、え、ま、す。僕も受験勉強に励
 んでいた当時は、書店で見つけてきた自分に合う参考書
 など、が、あ、た、り、て、い、が、学、校、で、使、っ、て、い、る、も、の、と、違、っ、
 いた、り、課、題、や、小、テ、ス、ト、が、多、く、あ、り、ま、し、た、い、ち、強、
 ない、こ、と、が、あ、り、ど、う、し、よ、う、も、な、く、困、り、ま、し、た、の、で、す、が、
 、い、ち、そ、れ、を、相、対、的、な、先、生、や、教、科、相、談、の、先、生、に、相、談、し、
 ける、と、案、外、話、ま、よ、く、聞、い、て、い、た、た、い、い、く、つ、か、り、解

決意を提案してもらう。たりました。と、このように、
受験生でもない、一つの学生は大切なことは、相談する。と
このことをした。僕は須原先生にも相談した。ところが、あ
ります。それは何のたに勉強して、いるのか分らない。と
い。た。今、思うことも、難しい相談だ。と、思っています
が、心を聞いて、抱えて、いるものを、止すことで、先生も
それに、対して、真摯に、対応して、下さい。と、解決された。た
らうと思えます。なので、須原先生、担任の先生など、人
生経験が豊富な方々が、おられる状況を、最大限に、活かして
、ご人な相談にも、のって、頂けると、思うので、一人では、と
うしても、解決できない問題や、悩むことを、解決できること、も、あ
ります。ぜひ、抱えて、ま、ず、に、相談して、ほしいと思えます
。そして、学んだ中で、最も大切なことは、諦めないこと
。ということや、一ヤリ、遂げる。ということ、だと思えます。
これも、須原先生が、いっつも、おっしゃられて、います。が、これ
一冊という参考書を、やり切る。と、いうことは、非常に、大事に
す。受験直前に、なるにつれて、須原先生が、おっしゃって、い
た。これ一冊、と、いう言葉の大切さ、が、とても、身に、し、し、
わ、か、る、よ、う、に、な、り、ま、し、た。僕は、その言葉を、聞いて、これ
一冊、と、いうもの、を、各科目、ごと、に、作、り、た。ので、それ、が、そ
れ、が、センター試験直前、二次試験直前、にと、も、役に、た、ま、っ
た。のと、同時に、心の、支え、にも、な、り、ま、し、た。と、いうのも、
これ一冊、や、て、お、け、ば、大、丈夫、だ、と、信、じて、いた、ので、変に
不安、な、つ、の、ら、せ、る、こと、も、な、く、乗、り、切、る、こと、が、で、ま、し、ま、し、た

正直、大学受験は精神が勝負とい。ても、言に、過、ぎ、て、は
ない。けど、自分の力を、と、れ、た、け、出、せ、る、が、勝負、と、なる、の
で、そう、い、う、こと、も、含、め、て、これ一冊、と、いう、もの、は、本、当
り、よ、か、つ、た、で、す。最終に、受験勉強、と、関係、な、い、と、い、う、こと
は、な、い、の、で、す。が、須原先生、教、室、で、の、思、い、出、な、ど、も、述、べ、た
い、と思、い、ます。僕は、小学、四年、生、か、ら、この、教室、で、お、世、話、に
な、つ、て、い、る、の、で、す。が、正直、最初、は、恐、い、と、い、う、印象、しか
な、か、つ、た、で、す。しかし、時には、映画、会、輪、投げ、大会、など、
楽しい、イベント、も、あ、り、な、ら、ば、勉強、する、と、思、い、は、磨、り、く、し
。か、し、と、い、う、環、境、で、あ、つ、た、こ、と、に、後、に、な、り、気、付、き、ま、し
た。これは、とても、大切な、こと、で、息、坂、ま、は、こ、も、重要、だ
と思、い、ます。が、ヤ、リ、ソ、ク、リ、ハ、ソ、が、必要、で、乗、り、こ、ま、り、
思、い、ます。乗り、乗り、勉強、する、と、思、い、は、磨、り、く、し、。か、し、と、い、う、道、人
で、勉強、する、と、い、う、姿勢、ま、し、。か、り、持、つ、て、ま、ら、い、たい、と思、
います。せ、。かく、須原先生、敬、業、そ、の、友、達、と、い、つ、た、素
晴、ら、しい、環、境、が、あ、る、の、だ、か、ら、それ、を、活、か、し、て、頑張、つ、て、
ほ、し、い、で、す。

大学受験体験記
 西田 茉佑子
 大阪府立大手前高等学校卒
 九州大学工学部合格
 私は小学四年生の時に須原英数教室に入塾し、その後浪人時を合わせて十年間お世話になりました。今回、高校に入學してからこの話を書こうと思えます。
 まず、中学校の時と比べると、高校での勉強は質も量もまるで違います。より難しく量の多い学習をこなさなければいけません。しかし大手前高校に合格し、少し浮かれていた私はそのことを大分に心得ていませんでした。勉強を怠り、部活動は一生懸命に取り組むという、高校生としてあるまじき日々を送っていました。ただ、須原先生の助言を受け、数学の例題カードの作成と速読英単語だけをしていました。これが後々役に立ちます。
 その後、三年生に進級し、学校でも大学受験対策の授業が増えてきました。私も本格的に勉強を始めようとしてきました。しかし、今までその場しのぎの勉強しかしていませんでした。理解できていない部分が多かったのです。特に物理と化学がそうでした。解答解説を見てみるとよく分かるない、暗記しようとして体系的な勉強ができていないためによく暗記しようとして体系的な勉強ができていないと思われました。この時、私は浪人する気は全く無く、早くどこかの大学に合格してしまいたいと考えていました。志望校もほとんど下がり、センター試験の結果

が4%ほどだった。なので大阪市立大学に受験しました。結果は不合格でした。浪人はしたくないと考えました。が、このまま大学生になつてはいけなないという気持ちもあつたのだと思います。私立大学は受ける気にはなりませんでした。そして浪人することか決まりました。
 予備校の授業が始まるまでの過二し方が大切だと須原先生が強くおっしゃっていたので、私はこの時期に数学の例題カードの確認テストと再び速読英単語をしました。例題カードも見直すときは、理解度に応じて○や×などの印を付けるようにしました。速読英単語に関しては、現役の時に暗唱まで終えてあり、受験の時に英語が苦勞するということには特にありませんでした。浪人時もその状態を維持できるように、仕上げ編は何度も書いて復習しました。春休みのこの勉強は実力の蓄えになり、特に数学が伸びました。志望校も東京工業大学と非常に高く設定しましたが、四月の模試でB判定を取ることができました。予備校の授業が始まるにあたり、良いスタートも切りました。
 大手予備校に入學した私は、理系で上から二番目のクラスに入ることにになりました。クラスも、クラスも百人以上もいるような大きな集団です。授業内容も高校の時とは全く違います。国公立大学も目指す私のクラスでは、国語、数学、英語は全て漢習授業でした。春休みの間に数学の例題カードも見直しおいて良かった。

たと心から思いました。予備校の授業に振り回されては
 いけないう。須原先生の忠告を何度か受けていました。こ
 の時期はまだ余裕があったので、数学の例題カードをし
 ていました。物理、化学は夏休み頃までかかりました。こ
 現役の時に急げた分も全て取り戻しました。ただし、こ
 の時にゼミノートなどの実力の蓄えになる形にしていな
 かったりで、成績は安定しませんでした。地理もそうデ
 す。これが浪人時の一つの失敗です。
 夏休み明け、それまでの模試の結果から私は一番上
 のクラスになりました。数学のテキストが難しいものに
 なりました。私は頑張った。解こうと思、以前よりも時
 間をかけていました。そんな難しい問題を解く必要は
 なかったのですが、気がないうちに予備校の授業に振
 り回されてしまいました。これが二つ目の失敗です。成績も
 良くない状態が続き、十二月になる頃には東京工業大学
 を諦めざるを得ませんでした。
 そして二度目のセンター試験が近づいてきました。セ
 ンター数学の勉強法ですが、私はやはり数学の例題カー
 ドと過去問を往復しました。過去問は五年分もすれば充
 分で、あとは完璧でさながら大問のやり直しをしまし
 た。短期間のこの勉強で、本番では八割を超えることが
 できました。しかし理科、社会で思うような点数が取れ
 なかったこと、浪人しているのだから自信、自信
 もなかったことで大阪大学ではなく九州大学を受験する

ことにしました。二次試験は可もなく不可もなくとい
 った出来具合でしたが、センターリサーチで安全圏だ。た
 んで無事に合格することがかたまりました。嬉しい気持ちも
 ありましたが、とにかく安心しました。
 以上が私の大学受験です。反省するべき点は多いです
 が、それでも浪人して一年前やっつきて良かったと思っ
 ます。須原先生がいつもおっしゃっていましたが、学校の
 授業と実力の蓄えを作ることは大切です。実力の蓄えは
 数学のカードやゼミノートなど「これ一冊」というもの
 があればいいです。
 最後に、須原秀和先生、きよみ先生、家族、友人など
 様々な人々に支えられ、ここまで来れました。本当にありが
 とうございました。

大学受験と振り返り。之
立命館大学経済学部一年 清風高等学校卒業

東野 剛入

僕が須原英数教室のお世話になったのは、中学一年生の三学期から高校三年生までの約五年間です。しかしこの約五年間、僕が勉強に励んだのは、ここから来たのは、最後の一年間のみにした。

そもそも僕が須原英数教室に入塾するとき、かけにたのは、確かに勉強しながら、たか所の成績不振に悩んだから、結局その後、前述の通り、高校三年生になるまで、まげ続けました。このとき先生に勧められた、この「カード」や速読英単語に取り組まなげ、たためもあ、この文系のコース選択をして、いたにも関わらず、高校三年生の四月時点の僕の英語力は、中学三年生以下のレベルに

した。文字通り行く大学がありませんでした。おまけに一踏にた。この年周と、この周りの友人達も勉強に熱心に取り組み始めたの、僕は太りに焦りました。そこで、先生が何度も言、このあた、同じ参考書と何度も繰り返し返し、する、という助言に、勉強方法を何も知らなかつた僕は、疑、る、こ、に、し、ま、し、た。また、家では集

中力のな、自分には勉強できな、い、く、判断して勉強場所を、予備校の自習室に決めました。予備校の授業は、自習室で得た知識と整理するための時間として利用しました。

こうして僕はようやく受験勉強に打ちこみはじめまし

た。そして勉強に真剣に取り組んで始めて、いかに五年間、越、び、続、け、も、代、償、が、大、き、い、か、を、思、い、知、る、こ、と、に、な、り、ま、し、た。平日4時間、休日7時間の取り組んでも、一向に英語の成績が上、か、う、な、か、つ、た、の、ど、す。ま、ま、ま、す、但、た、僕、は、勉強時間は平日5時間、休日は10時間以上、毎日英単語を二百個、ア、フ、ケ、レ、イ、ド、と、い、う、英、語、の、参、考、書、を、一、冊、す、る、こ、と、を、ノ、ル、マ、と、し、て、取、り、組、み、ま、し、た。夏休みに入ると勉強時間は毎日12時間、毎日一冊、参、考、書、は、ウ、イ、ン、テ、ー、ジ、に、変、わ、り、英、單、語、は、三、百、個、た、増、え、ま、し、た。

勉強が大嫌いな僕が、毎日のように、時間勉強に取、り、組、め、た、の、は、お、と、ろ、く、英、語、と、英、語、の、勉強の間に世界史や古文などの他教科の勉強を挟み込んだため、た、考、え、こ、い、ま、す。集中力、か、い、え、て、英、語、に、う、ん、ご、り、し、て、ま、た、こ、こ、は、世界史に逃げ、る、も、木、に、も、飽、き、た、ら、古、文、に、逃、げ、る、と、い、つ、真、合、で、す。勉強を疲、れ、ま、か、ら、う、レ、ビ、を、見、た、リ、ゲ、ム、を、す、る、こ、い、う、こ、は、僕、の、よ、う、な、意、思、十、集、中、力、が、弱、い、人、は、す、る、べ、き、と、は、な、い、と、思、い、ま、す。そ、ん、な、こ、と、を、し、た、ら、二、度、の、勉強に、戻、る、こ、と、は、ど、き、な、い、か、ら、ご、う。その代、わ、り、僕、の、場、合、は、予、備、校、が、終、わ、り、こ、家、に、帰、り、ま、ま、と、は、好、き、な、た、け、越、び、倒、し、て、家、に、い、る、間、は、一、切、勉強の、こ、と、は、考、え、ま、せ、ん、と、し、た。僕、の、よ、う、な、勉強が、嫌、い、な、人、は、休、息、が、な、け、れ、ば、勉強に、毎日、長、時、間、取、り、組、め、な、い、と、思、い、ま、す。

こう、い、う、真、合、と、勉強に、取、り、組、め、た、お、陰、に、模、試、の、偏、差、値、を、超、え、た、こ、と、が、な、が、た、英、語、が、夏、休、み、明、け、の、シ

差、値、を、超、え、た、こ、と、が、な、が、た、英、語、が、夏、休、み、明、け、の、シ

ニアテスト予備校の模試で50代後半以上と取れるよう
 になり、二学期中の模試では初め60を超えようとな
 りました。その結果、もともと国語・社会はどことど得
 意なこともあり、こ文系三教科の成績は大体的に上のほう
 にかつてきたようになりました。第一志望の立命館大学
 の判定もこのころからCからA判定ともう入るようにな
 っていました。

こは言え、二こまを準備するに書いたことでしたが、結局
 僕は一般入試では全く推薦入試で入学するに決ま
 りました。あまり参考にはなれないうえ、もし入ま
 たら見れば逃げたとも入るだろうし、と水加ま、大く
 の言いかかりであること否定することほごまません。しか
 し一方、この一年間苦しみながらも努力して、その結
 果がきちんと現れたのは物々もたい事実であり、僕のこ
 れから先の人生をええと破るべく、とくわることと信じて
 いきます。

最後にたりました。破に勉強したか、僕を見捨
 ないでください。須原泰和先生ときよみ先生の両先生方
 には感謝しともしさ入ません。本当にありがとうござい
 ました。大学でも先生方の教えを思い出し、勉強に励
 みます。

合格体験記

高津高校 出身
 神戸大学 法学部 進学
 古田 理紗

私は六年前の小学校を卒業しようかというぐういの頃
 に、須原塾に入らせていただきました。その頃の私はと
 いうと、本を読むか外で友達と走り回って遊んでばかり
 で勉強とは何たるかを全然分かっていませんでした。友
 達の紹介で須原塾を知り、一家の近くだし、見に行っ
 てみよう。という軽い気持ちで見学に行きました。その
 自分と同じ年の子供たちばかりとて、一生懸命に勉強する姿
 が、数学や英語に取り組みんでいる姿を見て、驚いたこと
 でも覚えています。あの時から、負けてはいられないと
 勉強に取り組みようになったと思います。

中学校に入ってからは、暗算テスト、社会・理科・国
 語教室などの授業がとて役に立ちました。特に暗算テ
 ストは、後に高校に入ると速読英単語をする際にスパー
 スに進めるのに役立ちました。そして迎えた高校受験。
 私はその時学んだことが一つあります。それは、勉強をよく
 勉強するということ。どなたか長時間イスに座って
 勉強しているも、集中して効率よく勉強を行わなければ
 勉強はただの時間の浪費です。勉強が苦しくさを感じら
 れるのです。高校受験の時の私はまさにそれでした。可
 っとイスに座りっぱなしでだらだら勉強し、あまり頭に入
 っていないか、たのではないかと思えます。だから私は

大学受験の時はそうならないようにしようと思ひ、高校に入学しました。

高校一年生は部活に勉強に頑張ったように思ひます。

部活は週七日という大変な部活でしたが、数学のカードを二つ二つと作り、速算(結局は一年半もかかってしまいました)を行いました。字板で用いる数学のサクリードは二、三回くり返し、英語の参考書などもくり返し行いました。また数学のカードを作り、ばなしにしたのはいけなかったと思います。そして速算を一年で終わらせるべきだ。と思います。もしそれを二つ二つ行な。ておけば、結果は今と違。たかもれません。

しかし高校二年生になって、今となっては悔やんでも悔やみきれないことですが、だんだん部活がフェイトを占め、勉強がおろそかになっていったのです。何事も傾倒しすぎるのはよくないということが後になって身にしみました。勉強をあまりしなくな。たのは、もう一つ理由があります。それは自分の進路に迷いが出たからです。自分が本当にしたい事は何なのかという事をめぐって、母と衝突したことや少なくはありませんでした。だから先輩の方々に早い段階に自分かしたい事を見つけて、それに合った大学を選んでほしいと思ひます。私の場合、最終的に決ま。たのは二年生が知らるう分という事でした。

高校三年生になって四月末に部活を引退しての初めて

の記述模試が散々だった。なので一学期と夏休みは二次対策を中心にしました。数学のカードはその頃に出ていたのでくり返し解き、速算などをしました。私の場合、集中が途切れないように、二、三時間を一ターににして様々な科目を勉強するようにはしました。そのおかげでタラタラと勉強してしまいがちな私でも、十時間ぐらい集中力を絶やせず勉強することができました。理科・社会は学校でもらった問題集を一、二冊決めてくり返し行いました。このくり返し行うという勉強法を須原先生に教えていただいた。本当によかった。と思ひます。そのおかげで確実な知識を身にけることができました。今後悔しているのはセンター対策をもう少し早く行。っておけばよか。たなという事です。センターを失敗すれば希望する大学を受験すら出来ません。私は本番のセンターで数II Bを大失敗し、第一志望の大学のホーターに届きませんでした。失敗した理由は、数学の基礎がきちんとして定着していなかったからだと思います。私は冬休みはカードではなく、数学センターの過去問を十何年分すべて解いていました。しかしいざ本番になるとカードで見たいような問題はかりでした。数学が苦手な子にはあれこれの手を出さずに、カードをしっかりと行ってほしいです。迎えた二次試験の時には、数学と英語がいつもより手ごたえがなく、落ちたかもれませんと思ひました。あの

自分の番号を見つけた時にはすごく驚きました。あの

喜びは忘れられません。

私が現役で合格できたのも、家族、学校の先生方、友達、須原秀和・きよみ先生のおかげです。そして須原塾に入塾したからこそ、今の自分があると思います。本当にありがとうございました。

九年間を振り返って

松原 千紘

奈良学園高等学校出身

名古屋市立大学芸術工学部進学

先輩方の合格体験記を読んでいた私が、今回は執筆側になっただけだと思ったり不思議な気持ちです。私が今までに体験記から多くのことを学んだように、私なりに後輩の皆様に何かを伝えられたいと思います。それではこの九年間を振り返ってみます。

へ入塾して中学受験へ

姉が小学校四年生の時から須原英数教室でお世話になっていました。その頃から姉が楽しそうに勉強している姿（お寿司に連れていってもらう、この姿も）を見ていました。私が小学校三年生の時、姉の中学受験のための説明会についていた時に初めて須原先生にお会いしました。そこで色々話かけていただき、私もこの先生のもとで勉強したいと思いい、入塾を決めました。

小学校五年生からは中学受験を考えていたため、「とび級B」でお世話になりました。算数は答えを出すだけでなく、解き方もしっかり書く事。毎日基本の勉強をする事。そして親や先生の言う事を素直に受け入れるという事を学びました。少しずつ成績も上がっていき、須原先生に第一志望校の奈良学園には合格できるだろうと言っていたことができました。しかし無意識のうちに緊張して

いたのか、A日程では合格することができませんでした。B日程では試験会場で須原先生に喝を入れていたとき、お陰様で無事合格することができました。

へ中学校生活へ

奈良学園の校風は自由であり楽しかったです。中高一貫校なので、中学二年生あたりで中たるみの時期に入っていました。そんな時は、先生がよく話して下さった。一向の為に中学に入ったのか。遊ぶ為でも部活をするためでもない、勉強するための。という言葉を思い出して頑張りました。しかし一度成績が下がりはじめると、簡単に上がりません。中学三年生になると授業は高校の範囲に入りました。このままでは駄目だと思い、「速読英単語」をくりかえし、「ゼミノート」や数学のカードをつくりました。授業で確認し、定期テストでカードとゼミノートを復習をしていきました。すぐに結果はでませんでした。見返して書き込んでいく事によって自分の弱点を把握したオリジナルノートを作ることができました。そしてこれらの速読、ゼミノート、カードが後々の大学受験における家宝になったことは言うまでもありません。須原英教教室で、高校生の生筆方の背中を見ていたことは本当に良い刺激になりました。

自分自身の将来について考え出したのもこの時期でした。室内楽部でバイオリンを演奏していた事もあり、音楽が大好きでした。なので音響工学に興味がありました。音

響やデザインが学べる芸術工学部を志望するようになりました。

へ高校生活へ

高校生になると、やらないといけないことも、やらないこともどんどん増えていきました。文化祭で委員会に入ったり、部活で学生指揮を務めたり、SSHの活動にも参加しました。予備校に通いだす友達も増えていき、焦りもありました。しかし、どの活動でも中途半端になるのは嫌だった。なので一生懸命活動しました。勉強との両立が難しくて悩んだ時期もありましたが、これらの活動をしていると、大学でやりたい事や勉強したい事が明確になってきました。この時は通学時間や休み時間を利用して、速読やカードをやっていました。

高校二年の秋に、部活を引退してからは一楽器は合格するまで弾かないと決め、家の物置に封印しました。無理矢理勉強しようとしたわけではありません。もし自分の受験が失敗してしまっただけ、今まで部活をしてきた事を後悔してしまふのが嫌だったからです。そして自分の為だけに勉強する事が許される受験期間を楽しもうと思いました。学校の自習室や須原英教教室でゼミノート、カード、速読を繰り返し使っていました。特にカードは通学中に見て、塾でテストを作っていたという流れで使っていました。受験勉強をしていくにつれて基礎の復の重要さがよく分かりました。そして何度も繰り返し

年季の入った教材達は自信を与えてくれました。

センター試験の日を迎えました。ゼミノート、速算、カードを見直していると自然と緊張もほぐれていきました。リスニングテストの前には加賀田先生のご指導にあつたように速算を倍速で聞きました。結果、理科と社会が思ったようにできまじりましたが、英語と数学はハ割以上とることができました。第一志望だった九州大学には届きませんでした。今までのの中では自己ベストでした。

そこから二次にむけて速算と数Ⅱのカードを中心に演習してまいりました。そんな時に駄目元で出願していた名古屋立大学芸術工学部の合格の知らせが入りました。予想していなかった合格だったのでも嬉しかったです。センター試験での英語と数学の成功がこの合格を勝ち取ったのだと思います。

へこれから
中学の時から学びたかったことを、この春から学ぶことのできる幸せな気持ちでいっぱいです。たくさんのごことを吸収していき、より自分の視野を広げていきたいです。この九年間ご指導して下さいました須原秀和先生、きよみ先生、そしていつも見守ってくれた家族には感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

浪人生になってしまふ勉強 水野 千賀子

上宮高校出身

進学予定 駿台予備校

私は高校の二年間と引退までの三年の五月くらいまでずつとクラブばかりして、いました。一年のとまはる程度勉強との両立ができていました。二年になつてからは勉強がはかばかになり始めました。そのおかげでクラブでは良い思い出ができました。いざ受験勉強をはじめたとき、二年で怠けていたことがあだとなりませんでした。特に数学ではI+Aはまだ！からたのですが、II+Bの基礎が全くできていないからたのでセンターのII+Bはおろか、二次試験で必要な数Ⅱが全く分かりませんでした。これは、いけない、と思。た私は苦学な分野からカードを少しずつ作って、いきました。過去問演習などいろいろのことをして、いろいろのカードを何回もする。このことに加えて、結局試験では見たことがあるけれど、解けないという状況になってしまいました。試験を受けてから、このカードを一番手か、たです。もう一つは生物です。私は生物が得意なので生物のゼミノートは作るなくとも大丈夫だと思。ていて作っていませんでした。しかし所衛医科大学の生物を解いたとき、基礎からやり直さうが、たかさん出てきて全く分かりず、基礎からやり直さうと思。いゼミノートを作、てい、と分かつたから、た単語がまちんと欄外に、小さな文字でもし、ハリと載、ていた

ので、もっと早めに作ってかけばミと思ひました。今の
 て現在ではゼミノートを一冊まるごと暗記するように入
 こいます。これまでに私の失敗した例を二つ挙げました
 が、それでも最大の失敗は自分の勉強をする時間も自分
 で削ってしまったことでした。上宮では大学合格講
 座という課外授業を去年から行い私はそれに申し込ませ
 ました。しかし申し込んで授業を受けたのはいいのですが
 その講座は夕方から始まり受けの講座によれば帰宅する
 時間か夜の九時を越えるものもありました。その結果、
 家に帰ってから寝るまでの間その講座などの予習、復習
 に追われ自分の勉強が全くでまされませんでした。
 だから、大学受験を控えている人たちには自分の勉強
 を大切にすること、数学ばかり返し解いて解ける問題に
 すること、得意科目だからといって過信せずまじめと勉
 強すること、ことに注意しながら受験勉強に限らず普段の勉
 強を頑張っていて欲しいです。

九年間の闘い。受験という名の旅の終わり
 近畿大学附属高等学校出身 大阪大学工学部進学
 今、受験という旅を振り返ると、思ひ出のほ
 小学四年にこの須原天教教室に訪れた日の事です。その
 頃は受験という向も知らず、僕が、その一年後に中学
 受験を志すとは夢にも思いませんでした。先生
 の聞いたことも多く、大事な事もない話で、心躍らされた最初の
 授業。もし、地平線の彼方まで直線を大蛇、海問あず引
 く事が出来れば、果たしてそれは本当に直線か。文は地
 球が丸いから曲線と云、さしやう。この話を聞いたこと
 をよく覚えています。そこから少しずつ勉強というもの
 の意味を理解し始め、こゝろが中学受験もこれからという
 時期に僕は退塾しました。今から思えば理由は多岐にわた
 り、とありませんが、その方が当時の僕にと、深く刻まされた
 ことには、たのしみ、うが。僕が中学受験を志すと人々
 記念という形を終えました。
 季節はめぐり、僕が地元の公立中学に入学し、そこか
 ら第三学区有数の進学校である高津高校に進学しよう
 と志しました。しかし再びその志は敗北に終わり、併
 願した近大附属に進学することになりました。高津とは
 渡からぬ縁がある、たといえは遠くはありませんが、足
 津出身である、たり母が自身と向き合ひが、たり、祖
 父が長く高津の教鞭を取った、といふから、それだけの

へますとこれはセンター自己採点後のリサーチの結果と
 前年度までの倍率を元にします。一つや二つの大学なら
 簡単ですが全国規模で一斉検索するのは専門の人
 がいそれに近い人が必要です。例が悪いですが株式の
 予想のようなものと倍率が下がる学部学科や大学は入
 リやすくありません。ただしこれは先ほどと言ったように
 センターが上手に手くいかさるが、大人用なのとまずはや
 ターを取ることに主眼を置いてください。
 皆さんが行うのは前者の方です。ここで質問タイム。
 志望校は決まっていますか？ 決まっていますならその
 配点は分かれますか？ 分かりますならその大学の
 難易分野はどこですか？ ここまで言えるならは上出来
 とす、が大抵は完璧に言えます。というのも四月時
 と皆さんの未修分野か(学校によ、と違う。レベルの高
 い私立は習、まいることとあります)、国公立では難易度か
 らです。するわけは数学の微積分(多項式たりしてなく)
 物理の電気、化学の有機などです。これらは得意率の平
 分を担うとい、という類出へというか毎年出題してまの
 どのことを押さなければその教科は得意というところ
 僕の本番では、物理の及第を為す力学と電気と7割、有
 機9割です。別に得意不得意とはなく毎回出るから心置
 きななく力を注ぐことができ、又安定して取れた分野とし
 あるからです。次に理科が強いというのには力学・電気
 ・有機が強いことと同義。数学はと教方単振動よりのと

安定して微積分を完答すれば得意と言いますの
 色々言いましたか。基本的に過問を見れば解りま
 す。未修分野は解りないので、講師や傾向の所を見
 るとよいでしょう。現役生は時期を早くと十一月ごろ
 実戦・予備校の入学別模試。本番を、くり
 作、くりすのど一番二次力を見ること(ができる)ま
 は傾向を掴んどおきたいものです。その成績が返る頃か
 丁度センター対策真。成りゆきのどA・B判定などが出れ
 ば勢いがつきますし、良い意味で安心してセンターに集
 中できます。
 推薦図書を付録します。実際に使、たしのごすので
 最後に御覧覧ください。頂ければ幸いです。

山岡君は私が勧める『参考書中心の学習』を実践してくれていた様子です。自分で使ったもので後輩に紹介できるものを、わざわざ原稿にして持参してくれました。ここに合わせて掲載します。

《推薦図書（理系用）》

原則として「一つの参考書を仕上げる」を旨として下さい。次の参考書に移る時の理由は大きく難易度を変える為だけです。一冊の参考書には多くの人間の気持ちがかもっており、それを仕上げればその教科は網羅できているものです。

《数学》

まずは学校で買った物を使用し、定期対策がそのまま受験に直結します。毎日新しい事を授業で習えばそれをその日のうちに復習。後は夏などにチャートやフォーカスなど（これも学校で買ったもので良い）で苦手分野を補えばいいです。特に整数や確率は難関大では頻出なので基礎から押さえねばなりません。最後の一カ月に追い込みをかけるならZ会出版の「理系数学 入試の核心 難関大編」をおすすめします。優れた良問揃いで出たらラッキーと思える問題はかりです（阪大以上）。

《理科》

同様に学校で買った問題集をまず仕上げます。これも定期テストがそのまま受験の合否に繋がります。故に日々の授業で完全にものにし、土日で定期対策が少しずつしていくやり方がベスト。宿題が出ているなら早期に取りかかろう。ただしこれで難関大の複雑な問題に対応できないことがままありますので、個人で参考書は必須です。

物理は早い段階で「物理 名問の森」に入っておきたい。通称名「森」で受験生の間で森と言えこれ以外に指すものはない。物理が苦手な方は「物理 良問の風」でもいい。これは通称名「風」である（笑）。森を完成させられたなら、「物理標準問題精講」というのが中々に痺れる問題を用意しています。余程物理で点を稼ぎたい方以外は森を完成させる事に注力して下さい。もしくは他大学の過去問なども良いです。東大などをリフレッシュ気分ですると、案外本番に類題が出る事があります。

化学はみんな大好き「化学重要問題集 教研出版」が解説も丁寧でやりがいがあります。その後、阪大以上なら「化学の新演習」で★二つか三つの問題をしたい（★一つは重要問題集のレベルなのでやる必要は特になし）。特に有機分野が重要問題集だけでは問題量が少なく、完璧になりません。新傾向問題と有機の構造決定は様々な問題にあたりそれらのパターンを一度見るだけでもかなり違います。時間がなければ有機だけでもいいので、問題に当たる事を推奨します。化学の方も他大学の過去問でも良いです。特に阪大志望には京大の過去問がいいと思います。

生物は習っていないので知りません（笑）。

《英語》

大学別に大きく問題形式が異なり最もその大学の特色の出る教科である。しかし、根本的に必要な力はセンターで養う事が出来る。

学校の教科書だけでいくよりも志望校の要求に合わせてべき。和訳ならば「ポレポレ英文読解プロセス50」か「英文読解の透視図」のどちらか一冊だけで仕上げたい（個人的にはポレポレのまったり感がいいです）。

英作なら「実践編 英作文のトレーニング（絶版）」を推奨する。センターとの違いがもろにでる分野なので意識的な勉強が必要となります。長文問題は学校の授業でものにします。後はセンター対策を行えば必然的に二次も取れようになつていきます。

自由英作はセンター後に先生に過去問を添削してもらおうのが一番いいです。その他、東大のように「なにこれ」と思うような問題は過去問で対応力を掴む以外他ありません。

《国語》

概ねセンター対策となる。取るべくは古文漢文。特に漢文は早期に仕上げて満点を取れるようになっておきたい。どちらも学校の授業や既に持っている参考書だけで充分で、後は模試と過去問で磨きをかけていく。現代文は取り方が分かるなら過去問だけでいいが、そうでないなら専門の先生に教えてもらわなくてはならない。過去問は必ず年明けの時点で近年の本試追試で十回分残しておかなくてはならない事に注意する。国語だけ模試や問題集とは問題が別格の精度で根拠がしっかりしている。

《社会》

あるやつでいい。買うならよりどりみどり。それより直前の予想問題集を是非とも購入したい。直前は過去問がなくなる事が懸念される。

《過去問》

赤本より「青本」。青本は駿台出版の過去問掲載書であり、駿台の練達した講師陣によって書き上げられた一冊で、特に化学の解説が赤本とは段違いです。一を解いて十を知る青本を是非とも読んで下さい（宣伝じゃないよ）。掲載年数が五年と短いのがネックですが、問題などはいくらでも手にはいるので解説の丁寧さで選ぶべきです。特にトップ校の解説には目を見張るものがあります。

「合格体験記」

明星高校

関西医科大学 進学

以前もこのようにお機会を頂き、その際に「不合格体験記」を書かせて頂きましたので、その続編のようなものとして書かせて頂きます。

私の高校三年の受験の結果は、悲惨なものでした。二つの大学の点数開示をした所、どちらも合格最低点に及ばないだけでなく、その半分ほどの点数でした。とても医学部に行けるような学力ではないと明確に示すものでした。つまり、私の浪人生活はほとんどのに近い状態から始まり、たようなものでした。そういって、下学わでしたので、成績が伸びにくく勉強を避ける日々が続くこともありました。そのため、須原先生の教室を避けるようになっていきました。私は、その状態を恥ずかしく思っていました。私は須原先生、きよみ先生のことを尊敬して、まずし、大好きです。しかし、私は良い所を見せたいと思っ

と自分に問いかけることが出来たと思っ、ていいます。答えは、「医学部に行つてやりたいことがある」それだけでした。あれこれ難しく考える必要はなかつたのだと思っ、ます。受験は誰のためではなく、自分のためにあると思っ、ています。ですから、心から受験生になるような人になら、そう思つて欲しいと思っ、ています。

二年目の浪人生活も、駿台に行くことを決めました。そこには、二浪や三浪、再受験の方がたくさんおりました。そこで私は改めて「たかが一年の勉強では、医学部には到底及ばないものだ」と実感しました。須原先生が私に少なくとも三年はかかるとおっしゃられた意味を、私はそこで強く納得しました。私は、二年でも三年でもそんなに変わりはしないと思っ、何か吹っ切れた気分でした。それから各科目やるべきことを明確にし、勉強したので、集中して打ち込めたと思っ、ています。英語は、速読英単語「ネクスターJ」、教本は「入試頻出これだけ」物理と化学は「重要問題集」を各科目、徹底的に繰り返し使いました。英語と数学は、少し不安な面もあつたので、授業で盗めるところを盗み、自分でわかつている所は復習に利用しました。物理、化学に関しては、ほとんどの授業は聞いていませんでした。ですが、問題集を開けば、どこでも答えることが出来るくらいまで使いました。最低でも十周はしたと思っ、ています。また、私には化学の書

手な友人がいたので、よく質問してもう言うようにして
ました。質問をされて正確に説明できるかどうかで、自
分の知識の確認にもなり、良かったのだとは思
ています。また同時に、教えることの難しさも実感し、
教えることを職としている人はすごいのだと思いました。
繰り返し返すことは一見、簡単なように思われますが、
私はそうは思いません。速回りに見えて、一番の正道だ
と思っっています。それと、一周目の自分と二周目の自分
では、見えてくるものが大きく変わってくると思いま
す。新しい発見がないと思っってしまうかもしれなけれど、
しっかりとやっつければ、毎回のように新しい発見があり、
成長する糧となつていくと思えます。

センター試験・二次試験への対策は過去問で傾向を
かんて、時間配分の仕方を気にして解くぐらいでした。
それ以外の時間は、以前していたことをまた繰り返す
るだけだと思っっています。それと試験前日には各科目、
一〜二時間で、今まで使つてきた参考書などをざっくり
かもしひませんが、全範囲見直すようにしました。
私は、私立の関西医科大学に行くことになりましたが、
国立の新潟大学医学部にも合格していました。多くの方
が疑問に思われるかもしれませんが、私が医学部を目指
した最初の理由は、開業医である父の後を継ぎたいと思
ったからです。関西に残ることで、その可能性を捨てる
ことなく、色んな可能性を持つるようになったと思いま

した。この選択は、私の家庭が経済的に余裕があるから
こそ、出来るものだと思っっています。私の人生に幅を
かせてくれる両親には心から感謝しています。
この二年間を振り返つて、様々な人が支えてくださり、
気にかけてくれました。家族、友人、須原先生、きよみ
先生を含めた皆には、感謝の気持ちでいっぱいです。
本まに有難うございました。これで終わりとして頂
きます。

創塾35周年記念

1979年（昭和54年）3月、私たちは結婚しました。妻は神戸の公立中学校で国語の教師をやっていたのでいくらかの蓄えを持っていましたが、大学に残っていました私は貯金が皆無に近く、山本駅前にあった労働会館で総勢13名という両家の家族だけの結婚式でした。私が精神的な第二の父として尊敬する大学の恩師ご夫妻に、仲人や司会などすべてをやっていただき、私としましては心温まる最高の結婚式だったと今でも思っています。『私も頑固やけど、秀和さん、あんたも私以上に頑固やなあ…』と義父に言われた言葉が脳裏に残っています。親戚すら出席させないという考えに、私自身申し訳ない気持ちもあって、両親を説得することは大変困難でした。しかし、分相応に『頑固で、一本筋を通す』という私の気性に、妻の両親もそれ以後は何かにつけて私を信頼してくれました。

4月、かねてから頼まれていたご近所の中学生数人を教えることになりました。これが『須原英数教室』の始まりです。脳梗塞で倒れ半年間入院生活をしていた父の面倒を見るために、退院後急に結婚することになった一面もあり、せめて本代くらいは稼ぎたいという思いで、私としましては『塾』というより学生時代からやっていた『家庭教師』のつもりでした。世は『乱塾』時代でした。父が入院したころ、当時超有名だった『入江塾』の先生にならないかと、今は空手の師範をしています高校時代の心友が私のことを心配してくれて、入江伸先生のところに連れて行ってくれました。彼は中学時代入江塾で学んだ塾生だったのです。『勉強は自分でやるものだ。塾など必要ない』と考えていた私は、どうしても入江先生の考え方にはついていけず、友人には申し訳なかったけれども、入江先生に丁重にお断りしました。そのような私が36年間も塾をやっているのですから、人生はわからないものだとつくづく思います。

できれば大学院に戻り一から法律の勉強をやり直したいという希望も心の片隅にはありましたが、根っから子供好きの私には子どもたちに勉強を教えるのが楽しくてたまりませんでした。ある朝、玄関を出ますと10人ほどのお母さんが並んでおられました。何事かと驚きましたが、来年度の入塾申し込みのうわさを耳にされて並んでおられたのです。やがて四戸一（よんこいち）長屋の2階は生徒で一杯になり、『塾の名前がないから困っている』と言う生徒諸君の要望に、『中学生・高校生 須原英数教室』という正式な塾名を出しました。当時の私にはまだ『塾』という言葉を使うことに抵抗があり、須原英数『教室』だったのです。

1993年（平成5年）わが子が通う小学校のPTA会長を引き受けざるを得なくなりました。しかし、この経験が私に大きな転機を迎えさせました。小学校や中学校を内部から観察できる機会を得、それまで抱いていた学校や先生に対する考え方が一変しました。『塾』は必要だし、それは『学校教育の補完的存在ではない』と考えるようになったのです。その時以来、私は堂々と『塾』という言葉を使うようになり、『塾教育』について真剣に考え始めました。公立中学生ばかりでなく、小学生や私立中学生の指導に踏み切ったのはその頃でした。

役立ちそうな講演会や大学の公開講座などに積極的に参加をし、塾の団体にも加盟し、高校の先生をやっている友人たちと議論し、私の教室でも生徒や保護者にアカデミックな雰囲気に触れていただこうと、数年に一度『須原英数教室教育講演会』を開いたりもしていました。中でも記憶に残る公開講座は2002年の東京大学のものです。『学力』をテーマとし、5週間10回の講座で毎週早朝より新幹線で安田講堂まで通いました。10回目の最終講義は、元東大総長有馬朗人先生の『大学の大衆化』でした。講堂の2階席に天王寺高校の馬路校長先生もおられました。その年、天王寺高校と八尾高校（野村校長先生）が、初めて塾長対象の説明会を学校で実施されたのですが、これは塾と公立高校とにとっては画

期的な出来事でした。さすがに熱心な先生だなと心に残っています。

これまでの『須原英数教室教育講演会』は以下の通りです。

- ・第1回 平成13年11月10日 東大寺学園 副校長 田中満夫先生
『21世紀 日本の社会と教育の行方』
- ・第2回 平成16年11月14日 東大寺学園 校長 田中満夫先生
『国語は嫌いですか』
東大寺学園 入試担当主任 奈蔵宏至先生
『つれづれなるままに…東大寺学園数学事情』
- ・第3回 平成18年 3月12日 東京大学文学部 名誉教授 坂梨隆三先生
『謙虚な気持ちで、地道な努力を』
- ・第4回 平成19年 9月30日 京都大学大学院 法学研究科教授 北村雅史先生
『近頃の大学像・学生像』
- ・第5回 平成26年 3月30日 大阪教育大学 英語教育講座教授 加賀田哲也先生
『私と英語と英語教育』

高校時代の恩師からは、教育についての本を読み、教育学を勉強しておくようにとのアドバイスを受けたりもしましたが、本から得た既成の知識ではなく、白紙の状態から自らの考えを試行錯誤しながらも、経験に基づく『教育』を先ずは積み上げる。それが出来てから、大学等で学ぶ『教育』からすればそれがどう評価できるものなのかを判断する。その方が、これまででない新しいアプローチとして考えられているのではないか、学校ではなく塾ならばそれが許されるのではないかと考えました。今でもそう思っています。例えば、2009年に公益社団法人全国学習塾協会主催の『塾の日フェスティバル』が尼崎で開かれました。『分数ができない大学生』の著書で有名な京都大学経済研究所教授・国際教育学会会長西村和雄先生と灘中学校・高等学校校長和田孫博先生と私と3人でパネルディスカッションをしました。その折、私は西村先生の本を数冊拝読しましたが、その時『グラッサーの選択理論』に出会ったのです。その中のいくつかはすでに私が実践していたもので、そのことに理論的根拠を得た喜びと、逆に自分の経験からグラッサーの考えも正しいものだという確信が生まれました。このように『職人的な経験』が教育理論的にどう評価できるのか、が今後の課題だと考えています。

2010年(平成22年)3月、私には素晴らしい出会いが待っていました。大阪教育大学英語教育講座教授加賀田哲也先生との出会いです。平成23年度より小学校英語活動が必修化されることになり、文部科学省は『英語ノート』を作り準備を進めているところでしたが、確立したカリキュラムや英語指導の指針が示されていない状況でした。NPO国際文化教育支援機構事務局の元関西外国語大学教授中林眞佐男先生が主催されていた、年3回の『小学校英語活動研究会』に参加した折、次回第4回は『中学校高等学校における英語指導―塾の視点から』というテーマで『研究発表』とい形式で話をしてほしいと依頼を受けました。その折同時に『新学習指導要項に伴う小中高の英語一貫教育について』というテーマで『講演』されたのが加賀田先生でした。

それから1年ほどして、私の教室の指導に興味を抱かれていた先生が授業参観にお越しになり、お付き合いが始まりました。大学の、それも教育を専門に研究されている教授が、私のような小さな学習教室になぜ興味を持たれるのだろうか、緊張の面持ちでお迎えしたことを覚えています。その後、年1回が2回になり、毎年夏と冬の『特別集中講座』において、ボランティアで英語の授業をしていただいています。先生の指導法と英語の発音は素晴らしく、元より私が足元にも及ぶところではありません。そのことは何よりも私の教え子たちが、敏感に感じ取り正直に態度に表しています。彼らは先生の来訪

を心待ちにし、先生のご指導のおかげでセンター試験の筆記とリスニングの成績が飛躍的に伸びています。学会発表や海外出張でお忙しいのを重々わかっていながら、先生のご好意に甘え、国際教育学会機関紙に掲載する原稿の英文翻訳をお願いしたり、35周年記念教育講演会の『基調講演』をお願いしたりと、生徒ばかりではなく私も大変お世話になっています。

それでは、第5回須原英数教室教育講演会のプログラムの一部と写真を掲載します。会場の八尾西武8階バンケットルームは、立見席が出るくらい多数の方々に出席していただきました。

第5回 須原英数教室教育講演会

第一部

2 : 05 特別ご来賓挨拶 清風学園中学校高等学校 理事長 平岡 英信 先生
 2 : 15 基調講演

題目『私と英語と英語教育』

講師：大阪教育大学 英語教育講座 教授 加賀田 哲也 先生

第二部

3 : 20 ご来賓挨拶
 ・公益社団法人 全国学習塾協会 近畿支部 支部長
 ホリエグループ 塾長 荒川 雅行 先生
 ・関西私塾教育連盟 理事長
 伸学セミナー 塾長 清村 善治 先生
 3 : 30 『塾教育』実践報告
 須原英数教室 塾長 須原 秀和
 3 : 45 ミニ教育講演
 ・清風学園中学校高等学校 校長 平岡 宏一 先生
 ・東大寺学園中学校高等学校 校長 矢和多 忠一 先生
 ・灘中学校高等学校 校長 和田 孫博 先生
 4 : 25 コーヒーブレイク

加賀田哲也先生 プロフィール

アメリカ・シアトルにある州立ワシントン大学（理論言語学）および大学院（教育心理学）を修了した後、大阪大学人間科学研究科博士課程後期修了。博士（人間科学）。大阪商業大学教授を経て、現在、大阪教育大学教育学部・英語教育講座教授。

目下、大学で教員養成に携わるほか、関西圏の小学校、中学校、高等学校を中心に英語授業改善のための指導や教員研修にあたっている。

研究領域：小学校外国語活動、小・中・高一貫の英語教育、人間教育としての外国語教育、Humanistic Language Teaching。

学会：

英語授業研究学会（理事）、日本児童英語教育学会（理事）、小学校英語教育学会（理事）、外国語教育メディア学会（運営委員）、大学英語教育学会、日本国際理解教育学会、など

主な著書：

- 『小学校英語教育法入門』（共著、教育出版）
- 『児童が創る課題解決型の外国語活動と英語教育の実践』（共著、高陵社出版）
- 『英語授業改善への提言：使える英語を目指す授業実践』（共著、教育出版）
- 『児童が生き生き動く英語活動の進め方』（共著、教育出版）
- 『これからの小学校英語教育—理論と実践』（共著、研究社出版）
- 『小学校英語教育の展開—よりよい英語活動への提言』（共著、研究社出版）
- 『TOEICテスト速解ナビゲータシリーズ（文法編）』（単著、三修社）
- 『英語のリスニング・ストラテジー：効果的な学び方の要点と演習』（共著、金星堂）

など多数

ご出席者来賓名

学校関係（学校名アイウエオ順）

・上宮中学校高等学校	前校長 入試対策部参事	土井	博史	先生
・大阪桐蔭中学校高等学校	校長	寺川	国仁	先生
・大阪府立八尾高等学校	校長	浅田	建	先生
・大阪府立八尾高等学校	主席	藤原	大	先生
・大谷中学校高等学校	高校教頭	雪矢	敏明	先生
・大谷中学校高等学校	中学教頭	永田	幸子	先生
・大谷中学校高等学校	入試対策部長	山西	京子	先生
・開明中学校高等学校	校長	早坂	元実	先生
・関西福祉大学金光藤蔭高等学校	校長	杉岡	俊男	先生
・近畿大学付属中学校高等学校	校長	岡崎	忠秀	先生
・近畿大学付属中学校高等学校	教頭補佐	森田	哲	先生
・興国学園高等学校	理事長 校長	草島	葉子	先生
・興国学園高等学校・立命館大学 大阪府立天王寺高等学校	非常勤講師 元校長	岡	毅	先生
・城星学園中学校高等学校	校長	宮脇	道子	先生

・城星学園中学校高等学校	入試広報室長	大川	浩子	先生
・清風学園中学校高等学校	理事長	平岡	英信	先生
・清風学園中学校高等学校	校長	平岡	宏一	先生
・清風学園中学校高等学校	主事代理	松永	恵一	先生
・高槻市立上牧小学校	教諭	和田	博之	先生
・東大寺学園中学校高等学校	校長	矢和多	忠一	先生
・灘中学校高等学校	校長	和田	孫博	先生
・浪速中学校高等学校	高校教頭	宮	照夫	先生
・西大和学園中学校高等学校	生徒募集部長	新保	久俊	先生

塾関係（塾名アイウエオ順）

・がくあん	代表	神尾	聡一郎	先生
・関西教育システム	代表	岡山	和浩	先生
・学進舎Yセミナー	渉外・広報部長	松田	元気	先生
・湖北総合学園	取締役	山崎	英子	先生
・俊英塾	代表	鳥枝	義則	先生
・ホリエグループ	塾長	荒川	雅行	先生
・たちばな学習教室	代表	山本	良枝	先生
・たちばな学習教室	塾長	生藤	美紀枝	先生
・伸学セミナー	塾長	清村	善治	先生
・株式会社教育企画湯口塾	代表	湯口	兼司	先生
・特化塾ヨシダゼミナール	代表	吉田	良之	先生
・レーゼクライス	代表	三谷	修司	先生
・レーゼクライス	副代表	三谷	佐枝子	先生
・レーゼクライス	英語科主任	山下	祐佳里	先生

出版関係等（会社名等アイウエオ順）

・株式会社朝日教育社	営業統轄リーダー	辻	行平	様
・株式会社育伸社	大阪営業所所長	森川	悠司	様
・株式会社育伸社		川津	忠彦	様
・株式会社五ツ木書房	代表取締役社長	岡本	不二男	様
・株式会社五ツ木書房	駿々堂テスト事業部部長	伏見	薫	様
・US I 企画		臼井	充男	様
・大阪市立大学医学部附属病院呼吸器外科前期研究医		原	幹太郎	先生
・株式会社教育事業社	営業部マネージャー	宮川	真左美	様
・株式会社教育事業社		治田	道子	様
・株式会社月刊私塾界	記者（取材）	中古	光一	様
・服飾倶楽部	代表	中井	博重	様
・株式会社ルックデータ出版	塾ジャーナル記者（取材）	道旗	明子	様



西武八尾プラチナサロンで記念撮影。前列右から加賀田哲也先生・平岡英信先生・和田孫博先生 後列右から清村善治先生・私と妻・平岡宏一先生ご夫妻・荒川雅行先生。



特別来賓ご挨拶、平岡英信清風学園理事長先生のユーモラスなお話で、会場が一度に和やかなムードになりました。

妻の司会で、大阪教育大学教授加賀田哲也先生のご講演が始まりました。時間を忘れさせる感動的な内容に、ご出席の皆様からは大変な好評でした。





左：加賀田先生の英語に興味を持ち始めた動機、留学時代の勉強での努力と苦労等は、今英語を学んでいる教え子たちには大変勇気づける講演内容だったと思っています。
下：講演前の妻との記念撮影。



下左：上から和田先生・矢和多先生・平岡先生のミニ講演風景



各学校の先生方と保護者・生徒との楽しい対話のひととき

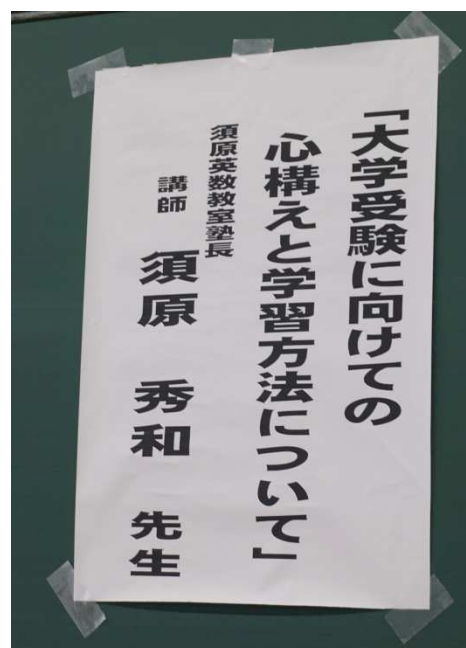


近畿大学附属高校進学講演会

3年前に、33年続いた『理数科コース』・26年間の『国際科コース』から『スーパー文理コース』『文理特進コース』に切り替えて、本格的に難関国公立大学を目指す方向に近大附属高校は舵を切りました。2013年11月7日、その最初の学年が2年生の時に進学講演をしましたことは、P. 3に記載の通りです。その時講演を聞いておられました1年下の学年主任の先生が、『私の学年の生徒たちにももっと早い時期に講演をしてほしい』と翌12月、教室に来訪されました。そういうご縁で2年続けて教育講演をさせていただいています。

近畿大学の教室で、生徒と保護者を合わせて400名近い出席者がおられたようですが、非常に熱心に聞いていただき、生徒が質問をしてくれたり、講演終了後握手を求めに寄って来られるお母さんがおられたりで、こちらも感激いたしました。

『塾教育』の実践をさせていただき、岡崎忠秀校長先生と森田哲教頭先生また近大附属高校の先生方には感謝しています。来年も良い成果が出ますことを願っています。



八尾高校新入生激励講演会

— 『八尾高校応援団長』奮闘記 —

『いいものはいい！』先の八尾高校校長杉尾哲先生の言葉でした。中学生の頃、初期の入江塾に通塾されていた経験から個人塾の良さを知っておられて、私の教室に来られ『八尾高校の応援団長』を私はお引き受けすることになりました。そのあとを継がれて精力的に頑張っておられるのが浅田建校長先生です。『いいもの』の基準が個人に任されていたものを、学校組織で基準作りをされて実践に取り組んでおられます。生徒諸君の自主的な行動を促し、遅刻が激減したこと・荷物が散乱し汚かった下足場が見違えるほどきれいになったこと・よく挨拶ができるようになったこと・学力が向上し始めたこと等、八尾高校は目に見えて変わりつつあります。

平成27年、八尾高校は創立120年を迎えます。校長先生をはじめ八尾高校の先生方はもちろんのこと、同窓会や地域の人々が八尾高校生の学力アップにも取り組んでいます。すでに3年前から始まっていますが、同窓会は10年間で4000万円の支援を予定しています。大阪アカデミアへのバス8台の交通費は同窓会から出ているのだ、と『新入生激励講演会』でも生徒に話をし、『君たちの先輩の集まりである同窓会』が、縁の下の力持ちになっていることを伝えています。

下の写真は4月23日（木）大阪アカデミアで新入生320人に講演を行っている様子です。八尾高校生としての自覚と自信と高い志を持ってもらう話をしています。今年で3回目ですが、目を輝かせて聞いてくれる生徒が年々増えています。このほかに12月25日は1・2年生対象の勉強合宿が3年前から実施されており、この時は具体的な勉強方法などに触れています。これも3回続いています。これからも微力を尽くしたいと考えています。



原 幹太郎 君 結婚式

私にとりましてはわが子のような教え子の一人です。当時、超難関私立中学校は灘・東大寺・星光でした。2～3年前に、息子を5年生9月から大手の進学塾に通わせて、大手の塾がどのような教材を使いどのように受験指導をしていくのか把握していましたので、その3分の1くらいの勉強量で合格できないものかと考えていました。この子が初めてその思いを実現させる挑戦でした。その頃の『教室だより』が偶然出てまいりました。右に縮小版を掲載します。1点に翻弄された気持ちを記しています。

教え子の結婚式出席はこの子で4組目です。2013年6月23日（日）乾杯の音頭と挨拶に、思い出が走馬灯のようにめぐってきます。大阪市立大学医学部を出て、呼吸器外科医として活躍してくれている姿に、私は誇りを抱いています。結婚式への招待は、私たち夫婦にとりましてはその子を教えた頃にタイムスリップさせてくれ、目頭が熱くなるひとときです。

幹太郎君・麻由さん、ご結婚おめでとうございます。



左：妹も弟も私たちの教え子です。

右：お祝いのスピーチ中です。



「1月は行く、2月は逃げる、3月は去る」と言いますが、年が明けたこの時期は本当に月日の過ぎるのが速い気がします。皆様いかがお過ごしですか。インフルエンザもようやく峠をこえた気配です。どうぞお元気で過ごして下さい。

今回の「教室だより」では、前回お話ししました受験生諸君のその後の入試経過、4月より始めます新しい2つの企画、などについてお話ししたく思っています。ご一読いただければ幸いです。

原 幹太郎 君

大阪星光学院中学校 合格

1月31日午後3時過ぎ電話のベルが鳴りました。原君のお父さんでした。「先生、あと1点でした…」合格最低点が279点、彼は278点。「なんていうことだ！」受話器を持って立てている私の体から、全身の力が抜けていき、すぐには次の言葉が出てきません。「補欠はありませんか。」私が帰ると「40~50名多目目によっているから、ないと思います。」とお父さんは応えられました。

私は幹太郎君を慰めようと必死で言葉を搜していましたが、電話に出た彼に「先生、実力があることがわかっただけで十分や。」と言われ、逆に教われる思いでした。しかし、私はそれから4日後の火

曜日の午後「繰り上げ合格」の一報が入るまで、強いショックが続いていました。

2年前、幹太郎君は私の教室にお母さんに連れられてやって来ました。「主人も私も幹太郎にどうしても私立中学へ行かすという気はないのです。公立中学が良いと思っています。それよりは考える力を身に付けさせたいのです。その延長上で、実力がつけば星光学院中学を受験くらいは経験させたい。」というご意見でした。幹太郎君がどの程度、実力や能力のある子か私には全く白紙の状態でしたから「わかりました。やれるだけやってみましょう。」と応えたいと思います。

5年生の1年間は基礎をつける勉強をしました。算数はなかなか良いものを持っているようでしたが、国語力はひどいものでした。理科・社会のテキストを音読させるのですが、まともに漢字が読めずらるとは読めないのです。記述式の問題に至っては惨憺たる状態でした。「あと1年でなんとかなるかも知れないが、星光は難しいな。」正直私はそう思っていました。

ところが、私のそんな気持ちも知らず、前回書きましたように、東大寺学園を受験したいと言い出したのです。6年生の1年間彼はよく頑張りました。お父さん・お母さんもよくがんばっていただけだと思います。もちろん私もよく頑張りました。9月と12月にスランプのような時期がありましたけれども乗り越えました。「中学受験は半分は親の受験」と言われますが、単に採点等を手伝うばかりではなく、小学生はまだ子供ですから、こういう時期にこそ親が精神的に支えてやり、不安を取り除いてやる役割を果たす必要があるのです。よくやっていただけたと思います。

いよいよ入試を迎えた時、私は「東大寺はその時勝負。でもなんとか合格するのではないかな。星光は大丈夫。合格する。」と確信し本人はもちろん、ご両親にもその旨をお伝えしました。



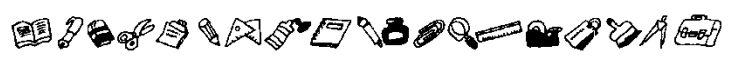
1月22日(木) 東大寺入学試験。昨年と比べ、算数がやさしく、国語が非常に難しい問題でした。原君にとっては不利でした。苦手な公民の分野の問題が多く出題されたことも彼にとっては不運でした。国語と算数の試験を終え、昼食に出てきた彼は「算数は満点かも知れない。全部できた。」とお母さんに話して、にこにこしていたらしいです。これなら合格できるかなと思っていたのですが、残念ながらあと一歩足りませんでした。

送付されてきた成績結果は算数が85点。自己採点したとき2問計算ミスが見つかりました。それでも東大寺の算数が85点取れるというのは大した実力です。受験生の中でもトップレベルでした。予想

より10点多く取れました。しかし国語が悪すぎました。「東大寺の国語は日本一難しい」と東大寺の先生自身が言っているらしいですが、受験生泣かせの問題です。本当はもう少し実力はあったのにとも思っています。

私は灘・東大寺・甲陽・星光・清風・明星・清風南海といった進学校の中学・高校の生徒を指導しています。各学校で学ぶ生徒たちの実力や能力はたいへん把握しているつもりです。特に東大寺の生徒はこれまで10人近く教えてきて彼等と幹太郎君を比べた時、幹太郎君が十分東大寺学園で勉強を進めて行ける能力も実力もあると判断していましたから、私には「合格するだろう」という自信があったのです。

今、長野で冬季オリンピックが開催されています。世界の実力者が集まっているのです。ちょっとしたミスのためにメダルに手が届かないこともよくあります。「強い者が勝つとは限らない。勝った者が強いのだ。」とオリンピックでは言われるらしいです。入学試験も同じ面があります。東大寺や星光といった「超難関校」ではちよ



っとしたミスが不合格につながります。

1月29日(木) 星光学院入試。星光の入学試験問題は東大寺学園の場合とは全く逆で、算数が非常に難しいものでした。これなら原君は大丈夫だと、内心思っていました。事実、国語は120点満点で95点、80%近い成績です。理科・社会も85%前後ありました。この子としてはベストの結果だと思えます。

しかし、実は原君は星光の入試でも計算ミスを3問(20点余り)もしているのです。26日からインフルエンザにかかり39度の熱を出し、星光の入試前日まで3日間床についていました。知識があるかないかを問うだけの問題ならともかく、思考力や計算力をみる問題には微妙に影響したのでしょうか。考えられないミスが得意の算数で重なりました。ミスがなければトップレベルでの合格のはずでした。いや3問のうちあと1問でも合っておれば、1問7~8点ですから、文句なしの合格なのです。「1点の恐さ」を思い知らされました。また1点なればこそ「繰り上げ合格」という喜びも味わうことができました。「1点の大切さ」も痛感いたしました。

原君の東大寺・星光の受験を通して、私自身学ぶことが多あり

ました。一つは大手の受験塾・進学塾のような激しい勉強をしなくても、「超難関校」を合格できる実力はつけることができる、という私の考えは正しかったと思うことです。もちろん個人の能力と努力にも差がありますが、一般的には大手の受験塾・進学塾に小学4年生くらいから通塾し、これでもかといわんばかりの勉強を繰り返して初めて合格できると言われている学校です。大手の進学塾ではそれほど優秀な生徒を多く集め、あれほどレベルの高い授業をできるという、個人塾では真似のできない良い面もあります。それはそれで素晴らしいとおもいますが、実は生徒の勉強は空回りしている場合が多く、わからないままに先に進むと言う効率的悪い学習をしていることも多いのです。原君は彼等受験塾の生徒に比べたら、勉強量は半分、否3分の1以下かもしれない。しかし、「質の良い・レベルの高い・わかる勉強」を着実に積んだと思います。だからこそ本格的に受験勉強を始めて、たった十ヶ月足らずで東大寺や星光に合格できるはずの実力をつけられたと考えています。彼はそれを証明してくれました。

第2に受験勉強中、私は彼によく次の様な話をしました。「実力のある人はいつかそれを出す。そ

れが小学生の時か、中学生の時かわからない。高校生か大学生になった時か、あるいは社会人になってからも知れない。それはいつかわからないが、実力のある人は必ずそれを発揮できる時が来る。君は大した実力を持っていると僕は思う。有名な学校に合格することよりも、将来立派な大人になるために、その能力を磨き、更なる実力をつけるべきなのだ。そして学校は、その時の実力に合った学校で学べばいい。試験の為の勉強ではなく自分自身の人格を高める気持ちで勉強し、大人になってからその勉強を社会の人々に役立てなければいけない。」と。



小学6年生の子には少々難しい話だったと思いますが、彼なりに理解してくれていたようです。星光学院受験の翌日、お母さんが来訪されたとき、こんな話をされました。冬休みに受験勉強も最後の追い込みで大変な時期に幹太郎君がお母さんに、「僕は勉強が楽しいねん。」と言ってくれたそうです。受験勉強を「つらいとか苦し

い」と言わないで、「勉強が楽しい」と言ってくれたことで「結果がどう出ようと私は満足です。須原先生に預けて良かったと思います。」と言われました。私も本当に嬉しい思い、そういう子だからこそ合格させてやりたいと思っていたのです。

受験塾の生徒とはまるで考え方が異なりますから、1点で不合格になった夜にも「もう小学校の勉強はいいから、中学校の勉強をしたい」と言ってやってきました。ショックもあるだろうに、このバイリティには私も驚きました。受験塾の生徒なら一ヶ月は勉強もしないでしょう。表面は同じ受験勉強をしていますが心の持ち方が違うところも違うものなのです。

まだまだあるのですが、だいた紙面を費やしました。これで終わります。最後に、幹太郎君合格おめでとう。本当によかった。

私立高校受験

順調な結果

ここ数年私立高校受験に関しては「全員合格」しています。今年も予想以上に順調で、心配していた2人も合格してくれました。奈良から通っている生徒が、奈良の

私立高校を合格した勢いで、大阪の私立を受験しましたが、理科の失敗が大ききひびき、残念な結果になりました。でも全員私立高校は1校ずつ合格していますので、今年も一応「全員合格」と言えると思います。

- 〇専願
 - 武庫川女子大付属高校 (東中学校)
 - 城星学園高校国際科 (暁川南中学校)
 - 国際滝井高校 (夕陽丘中学校)
 - 清風高校普通科 (東中学校)
 - 此花高校文理科 (暁川中学校)
 - 〇併願
 - 大阪女子学園高校 (暁川中学校 2人)
 - 清風高校理数科 (東中学校)
 - 上宮高校英数科 (暁川中学校)
 - 奈良智辯高校 (真美ヶ丘中学校)
 - 柏原高校 (暁川中学校)
- 以上11名

専願の生徒は2月一杯休養して3月から少し高校の準備の勉強でも始めたかどうか、と話しているのですが、私の教室にやって来てすぐに勉強を始めている熱心な子もいます。専願の合格者のうち3人は引き続き高校でも私の教室で勉強をしますので、嬉しく思っています。



28年ぶりの同窓会！

大学生になった子たちが集まって同窓会を開いてくれることはこれまでも時々ありましたが、28年前に曙川中学校を卒業した教え子たちが、6人も集まって同窓会を開いてくれたのは初めてでした。もちろん全員が結婚し、中学生や高校生の子がいるお母さんもいました。44～45歳になっています。東京から駆けつけてきた子も二人いました。私たちが忘れていたこともよく覚えていて『ああ！そんなこともあったなあ…』と、とても懐かしく心の中ではうれし涙を流していました。教え子は私たち夫婦の宝物です。

お料理もおいしかった。夕方にはもう一度3人が教室に顔を出してくれて、後輩たちに懐かしい話を聞かせてくれました。心温まる同窓会を開いてくれて、どうもありがとう！（2014. 6. 21.）



短信

写真などで最近の出来事を振り返ってみましょう。

○2015年5月2日

私の教室には『おやつタイム』があります。1時間30分以上の授業の際、妻が駄菓子とお茶を出してくれて、5分か10分休憩します。そのためか、修学旅行・家族旅行やクラブの遠征・勉強合宿などに出かけた折に、生徒諸君はよくお土産を買って来てくれます。これもおやつに出しますので『私の教室の生徒は、居ながらにして全国各地、最近では外国も含めて、名産品を食べられる特典があります』と話しています。

今朝は、親しい知人が“特注”の富山の『ます寿司』を送ってくれました。『生徒の皆さんでお召上がり下さい』と、お吸い物もついてなんと30人分です。ます寿司を始めて見る子も半数以上いて、駅弁などとは違い身が厚くそのおいしさに、生徒諸君は大喜びです。心温まるメッセージにも感激しています。お許しをいただいで掲載させていただきました。どうもありがとうございました。



須原先生
新学期はじまり何と
お忙しむと拝察に拝対。

今回は。
“これからの日本を担う
子供達”と並び、この趣
情熱と持願ひから「須原
先生」に感謝して、本心
心ばかりの応援エールと
贈らせていただきますと。
す〜と思に拝対。
子供達から、すばらし
お手紙と感謝のこぼれ
送ける先生は、私
知る範囲では、これ
一日本一、すばらしくと。
す〜いお手紙
ご夫妻がす〜
田村。



さ。お待ちしませ。
高山の「お返し」と
お届けせし下さるす。
いつも
美味いと評に聞か
同じの本があり下さるす...

北陸新幹線が通じて
高山駅周辺が新しくな
り、在り、街並みも親
着の期待に叶えたいと
思ひました。

2015
4.25 田村 拝。



○ 最近卒業の時、教え子たちから『寄せ書き』と『花束』などをよくいただきます。照れくさくて、それでいて大変嬉しい瞬間です。

2015年3月23日

真面目版

おもしろ版



2014年3月22日

真面目版

おもしろ版



○ 2015年4月17日

京大合格者が単独日本一になったと、西大和の先生が大変嬉しそうな顔を
して届けて下さった新聞です。3年前でしたか、学園長が教室を訪問された折に
私がお話したアイデアです。1960年からすでにあっただとは知りませんが、
『副教科ならネイティブによる英語の授業を始めやすく、生徒が英語に
親しめる』とお勧めしました。『理事長の鶴の一声』で実現したそうです。

リーダーの考え一つで伸びる学校は違うのですね。



多面的に英語にアプローチ

イマージョン授業

1960年代カナダで始まった一般教科を外国語で学ぶ教育方法。現在世界各地の学校で導入されていま
す。授業時間だけ英語に触れるのではなく、日常的に英語に触れる機会を多く持つため、西大和学園では、
音楽、美術、体育、技術・家庭などの実技教科の一部でネイティブ教員に学ぶイマージョンプログラムを導入。

○ 2014年12月27日

東京で国際公認会計士をしている中井雅佳君
が奥さんと双子ちゃんを連れて訪問してくれま
した。結婚式でスピーチもいたしました。早く
も双子ちゃんの入塾を予約してくれましたが、
それまで教室が続いているでしょうか…。



○ 2014年12月22日

大学受験生激励『恒例！かにすきパーティー』
心をこめて握ってくれる『おむすび隊』です。
心だけならいいけど…ね！？ 中学だけで卒塾した子も2人加わり、懐かしくて大変盛り上がりました。

いつまでも覚えてくれていて嬉しい限りです。



食べきれないくらいの差し入れを前に、
映画やトランプに興じました。



妙なカップルもありました。(笑)



○ 2014年11月17日

国会議事堂前の衆議院議員会館で、全国学習塾連絡会議主催の『教育セミナー』が開かれました。塾の会合がこのような場で行われることも、文部科学省の方が11名も資料を用意されて説明に来られることも、また、個人的な考えと前置きしながらも、質問に対して自分の考えを述べられる文科省の方もおられ、異例づくめでした。

『学習塾百年の歴史』編集長、調布学園佐藤勇治先生のご紹介で執筆者の一人として挨拶いたしました。



○ 2014年10月16日

小学生から大学受験生まで国語の指導をしています妻が、私が所属しています塾の任意団体『関西私塾教育連盟』から依頼を受け、『国語の指導』というテーマでミニ講演をいたしました。小学生には育伸社の『ほ〜ぷ』中学生には朝日新聞社の『今解き教室』を教材に、『単に解答を求めることに走らず、大学院のゼミをお手本にして生徒たちと対話を深めながら、生徒自らが正解に近づけるように導き、読解力・思考力の養成に努めている』ことを話しました。



○ 2014年10月12日



43ページにも触れていますが、岡山大学名誉教授の阿部浩二先生ご夫妻です。90歳を迎えられた先生ですが、お元気で嬉しく思っています。一年に一度くらいですが、ご挨拶にお伺いするのを楽しみにしています。私たち夫婦がご招待すべきなのに、逆に先生ご夫妻にお食事をご馳走になり、大変恐縮いたしました。私たち夫婦にとりまして、至福のひとつでした。教育者としての先生に、一步でも近づけますように精進します。

○ 2014年7月6日

西武八尾8階バンケットルームで『合同保護者会』を開きました。多数の皆様のご出席、ありがとうございました。



○ 2014年8月19日

夏・冬それぞれ2日間、加賀田先生の授業に生徒諸君は熱心に問題演習に取り組んでいます。



○ 2014年8月14日 大学受験生合宿風景 (勉強は一切しません。卒塾生の訪問もありました。)



○ 2014年6月29日 潮干狩りと魚つかみ in 鳥羽イルカ島 (大はしゃぎでしたね。笑顔が素敵です！)



○ 2014年 卒塾生の訪問

毎年たくさんの卒塾生が来訪してくれます。嬉しいひとときです。話に夢中になって写真を撮り忘れた子も多いと思います。お許してください。

9月20日・原知代さん

8月25日・西尾梨沙さん

8月22日・井上翔太君



8月16日・松原日佳理さん・河野千裕さん・
清水哲君・松葉朱音さんの4人



6月4日 松葉成生君が翔子さんとの結婚
の報告と砥部焼のカップをプレゼントに来訪。
お祝いすべきは私たちなのに…。ありがとう！



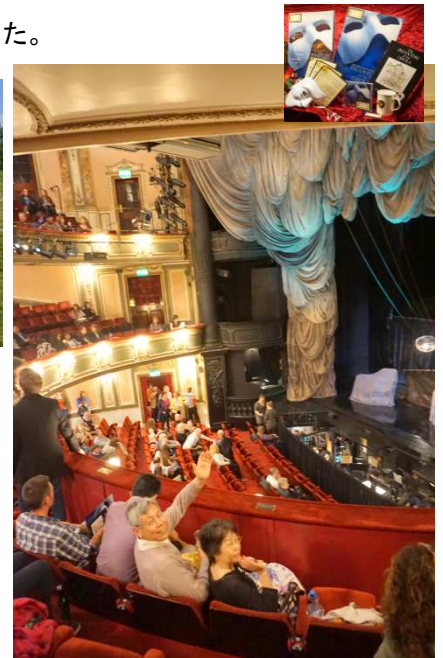
5月2日・松井陽平君

5月6日・松井翔平君、お母さん手作りのマドレーヌはおいしいでした。

○ 2014年 6月 ロンドン紀行

上海の復旦大学とロンドン大学での3年間に及ぶ研修を終え、7月から北京の日本大使館に入るといふ娘婿に会いにロンドンへ約一週間行って参りました。フォートナム・メイスンでのアフタヌーン・ティー、レストランでの食事、2階最前列席での『オペラ座の怪人』の観劇など、5人の我が子が相談し合って私たち夫婦に多くのサプライズを用意してくれていました。思い出多い幸せな旅行でした。教え子の原知代さん（P. 52）が学んだロンドン大学のSOAS(The School of Oriental and African Studies)も訪問してきました。

ロンドン大学の中に、1863年伊藤博文と井上馨が訪れた碑がありました（下）。吉田松陰の密航をペリーが許してやってくれていたら、歴史は変わっていただろうに…、と残念に思いました。



編集後記

保護者向けに2ヶ月に一度、私の原稿を妻が『ガリ版』に書き謄写版で印刷していました。これが『教室だより』の始まりです。B4のわら半紙1～2枚でした。わが子の育児に忙しかった妻の負担を減らそうと、出たばかりのワープロ『富士通オアシス』を購入しました。今の高級軽四車を買うほど高価だったと思います。『親指シフト』を練習し、4か月に一度くらい、B4コピー用紙4～5枚で配布していました。やがて光ファイバーのスーパーコンピュータ並みの速くて機能が充実したものが出始めました。富士通のものは1300万円ですとて手が出ません。リコーの『リファイル21』は500万円ほどで、何年間かのローンで買ったと思います。これは素晴らしい機械でした。生徒一人ひとりの教材の作成など、私の教室を20年間に渡って支えてくれたと思っています。価格競争でPCに負けましたが、今でもPCに負けない性能を持っていて、リコーの技術陣は素晴らしいのだと思います。その頃の『教室だより』が偶然見つかかり、掲載しています。8年ほど前に部品がなくなり、とうとう使えなくなって、PCに変えシステム化をしました。それ以後はカラーで写真などが入り、冊子になりました。塾や学校の先生にも配布することになり、今では500部を超えています。年に1回か2回が、今回は2年以上も発刊の間隔があきました。申し訳ありません。その分60ページにもなっています。半分はこの2年間の講演等のダイジェスト版のようになりました。

『ザ・個人塾』『超個人塾』『名物塾長』という言葉が紙面を踊っています(P. 3 P. 5参照)。初めて目にしたときには驚きましたが、塾業界の伝統ある雑誌にそのように表現していただけるのは『名誉』なことと喜んでます。これからは『生徒を集める塾』ではなく『生徒が集まる塾』を目指して、妻と二人で『自然体』で歩んでいきたいと思っています。

創塾35周年記念の『教室だより』第129号、ご一読いただければ幸いです。(2015年5月6日)

ホームページを開いています。
『須原英数教室』で検索してご覧いただければ幸いです。

1979年 創塾
講師を雇わず夫婦二人で指導

『学校の授業』と『自分の勉強』を大切にさせ、その『自分の勉強』を学習面ばかりでなく精神面においても生徒諸君を支えていこう、と考えて指導している教室です。

SUHARA EISU KYOUSITU was established in 1979. It is a supplementary educational study room, which is called JUKU. My wife and I have instructed Mathematics, English, Japanese and so on for more than thirty-six years without employing a lecturer and a part - time instructor. The most important thing to us is to encourage our students to concentrate on their school lessons and study at home, thus creating autonomous learners. And we have made efforts to become facilitators of our students' spiritual side as well as their study side.

国際教育学会 (ISE) 正会員
全国学習塾協会・関西私塾教育連盟 正会員

須原英数教室

〒581-0866
八尾市東山本新町5丁目8-1
Tel 072 (996) 7616・(996) 1020
Fax 072 (996) 1026
hik@alpha.ocn.ne.jp

